

アジア経済論 I

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

アジア地域のダイナミックな発展は、1990年代頃までその発展パターンは、日本を先頭にしてNIESが追いかけ、それに続いてアセアン4、その後に中国、ベトナム、インド、ブラジル、ロシアといった国が列をなしていた。ところが、90年代以降は、中国の台頭が著しく、雁行形態の理論そのものが崩れて来ている。21世紀は人的資源、天然資源の豊富な国の発展が見られる。

本講座はアジア各国の動向を捉え世界潮流との関連も含めて講義する。

【授業の展開計画】

授業展開計画

1. 韓国経済

- (1) 歴史的展開
- (2) 産業構造
- (3) 財閥形成

2. 台湾経済

- (1) 台湾の形成
- (2) 経済構造
- (3) 発展過程
- (4) 問題解決策

3. タイ経済

- (1) 農業国家から工業国家
- (2) 輸入代替から輸出志向工業化
- (3) 外資導入
- (4) 輸出構造の変化

4. マレーシア経済

- (1) 一次産品型経済から脱出
- (2) 輸出志向工業化
- (3) 貿易構造
- (4) 問題解決策
- (5) テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 意欲的な授業への参加を求める。
- (2) 疑問点に対しては積極的な質問を希望する。

【評価方法】

- (1) 出席率は3分の2以上、(2) レポートの提出 (3) 試験、(4) 質問等総合的に評価する。

【テキスト】

講義開始時に指示する。

【参考文献】

渡辺 敏夫・朝元 照雄編著『台湾経済入門』頸草書房
青木 健著『マレーシア経済論』日本評論社

アジア経済論Ⅱ

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

アジア地域のダイナミックな発展は、1990年頃までその発展パターンは、日本を先頭にしてNIESが追いかけ、それに続いてアセアン4、その後中国、ベトナム、インド、ブラジル、ロシアといった国が列をなしていた。ところが、90年代以降は、中国の台頭が著しく、雁行形態の理論そのものが崩れて来ている。21世紀は人的資源、天然資源の豊富な国の発展が見られる。

本講座はアジア各国の動向を捉え世界潮流との関連も含めて講義する。

【授業の展開計画】

1. シンガポール経済

- (1) 社会構造
- (2) 開発計画
- (3) 外資導入
- (4) 貿易構造

2. フィリピン経済

- (1) 拡大する労働市場
- (2) ファミリー支配
- (3) 製造工業
- (4) 外国貿易

3. ベトナム経済

- (1) ドイモイ政策
- (2) 工業化戦略
- (3) 外資導入

1. 中国経済

- (1) 改革開放政策
- (2) 外資導入政策
- (3) 産業構造
- (4) 貿易構造
- (5) テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 意欲的な授業への参加を求める。
- (2) 疑問点に対しては積極的な質問を希望する。

【評価方法】

- (1) 出席率は3分の2以上、
- (2) レポートの提出
- (3) 試験
- (4) 質問等総合的に評価する。

【テキスト】

講義開始時に指示する。

【参考文献】

榊原 芳雄『フィリピン経済入門』日本評論社
南 亮進・牧野 文雄編『中国経済論入門』日本評論社

インターネットと経済学

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、論文・レポートの作成に必要な経済統計の情報が、どのようなところにあり、どのように活用できるのかを学ぶことを目的とする。具体的には、重要となる経済統計の情報を各省庁・研究機関のWebサイトを通じて一通り確認し、その情報の経済学的な意味の解釈を中心に講義を行う。これらの情報を元に、簡単な計量分析を行うことを通じ、現実の社会における問題点の定量的な把握方法について学んでもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（登録と講義計画）
2	経済分析に用いる統計情報
3	情報検索の使い方
4	白書・レポート（政府系機関）
5	人口（人口構成・平均余命・将来推計）
6	労働（都道府県別失業および就業状態・労働需要）
7	企業（都道府県別設備投資・企業収益）
8	物価・景気（物価指数・景気動向）
9	家計（家計収支・世代間および世代内格差・消費（貯蓄）動向）
10	政府（国家予算・都道府県の財政）
11	金融（金利・通貨供給・為替）
12	単回帰分析
13	重回帰分析（検定を含む）
14	重回帰分析（ダミー変数・ロジット分析を含む）
15	分析への応用
16	期末考査（レポート含む）

【履修上の注意事項】

基礎的なミクロ経済学・マクロ経済学やPCの使い方に関し知識があることが望ましい。（必須ではない）

【評価方法】

レポート、出席、テスト、その他を加味し評価。

【テキスト】

詳細は第一回目の講義の際に指示する。

【参考文献】

福田慎一・照山博司，2011，マクロ経済学・入門 第4版（有斐閣アルマ）
鈴木正俊，2006，経済データの読み方（岩波新書）

欧米経済論 I

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、主として歴史を軸にアメリカの経済構造や政治構造を学んでいくことを目的とする。とりわけアメリカ合衆国に焦点を絞って、内政・外交・経済などについて知識を広げていく。また必要に応じて、企業の勃興や生産システムの構築などにもふれ、アメリカの経済について考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	独立戦争
3	産業革命
4	南北戦争
5	自動車産業の勃興
6	第一次世界大戦
7	大恐慌
8	中間試験
9	ニューディール
10	第二次世界大戦
11	冷戦時代
12	ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争にみる経済活動
13	サブプライム・ローンやリーマン・ショックが語るアメリカ経済
14	現代アメリカ経済を考える
15	欧米経済論 I の質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語、遅刻、理由なき途中退席、不必要な携帯電話の使用などは厳禁である。
- (2) 毎回の小テスト以外にも、質疑応答を実施する。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

萩原・中本編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年。

【参考文献】

各回の講義で適宜紹介する

欧米経済論Ⅱ

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

欧米経済論Ⅰを受けて本講義では、EUを対象とした経済分析を進め、ヨーロッパの政治・経済統合に伴う各国の動きを歴史的に解明していくことを目的としている。また身近に存在する企業との関連性もふまえて講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	EUの概要(制度、歴史)
3	英国①
4	英国②
5	英国③
6	フランス①
7	フランス②
8	中間試験
9	ドイツ①
10	ドイツ②
11	EUの拡大と統合①
12	EUの拡大と統合②
13	共通通貨ユーロの意義①
14	共通通貨ユーロの意義②
15	共同体とその意味
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 講義中の私語・携帯電話などは禁止である。
- (2) 新聞の国際欄を読むように習慣づけること。

【評価方法】

出席(50%) + 試験(中間25% + 期末25%)。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

辻悟一『EUの地域政策』世界思想社、2003年。

【参考文献】

田中他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年。
羽場『拡大ヨーロッパの挑戦』中公新書、2004年。

沖縄経済入門

担当教員 宮城 和宏（他、複数教員）

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地元、沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の過去、現状、将来の課題等についてを経済学各分野からの視点を通じて直感的に理解できるようになることが本講義のねらいである。地元経済をまずはよく知り、そこから日本経済、アジア経済や世界経済を見て、自分の立つところを相対化できるようになることに主眼を置いている。なお、同講義は経済学科専任スタッフ全員と外部特別講師で担当する。

【授業の展開計画】

授業の内容

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法、その他について（宮城）4/10
2	沖縄の小売業：サンエーの経済学（宮城）4/17
3	沖縄のソーシャルビジネス（村上）4/24
4	沖縄の基地問題（前泊）5/1
5	沖縄の観光と経済（湧上）5/8
6	沖縄の財政と社会保障（庵原）5/15
7	沖縄の若年者雇用問題（名嘉座）5/29
8	沖縄の交通問題（梅井）6/5
9	沖縄の振興策の課題（宮田）6/12
10	沖縄の文化産業の構造（浦本）6/19
11	沖縄の金融（安藤）6/26
12	沖縄の都市問題（崎浜）7/3
13	沖縄の自殺と生活保護（村上）7/10
14	沖縄の失業と公共政策（松崎）7/17
15	総括（宮城）7/24
16	テストまたはレポート7/31

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等は自重し、マナーを守ること。

【評価方法】

テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

貨幣経済論 I

担当教員 松崎 大介

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、日々の経済活動に用いる貨幣が経済に与える影響について議論する。ミクロ経済学で考えられる一般的な均衡では貨幣の存在は均衡の成立に必要な条件ではない。一方、我々の日常生活には貨幣は常に用いられている。経済モデルへの貨幣の導入に関しては、大きく分けて3つのアプローチが存在する。

1. 貨幣効用関数モデルや流動性制約モデル, 2. 古典的な世代重複モデル, 3. マッチングモデル

本講義ではこれらのモデルの違いを考慮しつつ、貨幣の役割についての議論を概観する。

【授業の展開計画】

- 1 インTRODakション
- 2 我慢強さの差異と貸借
- 3 情報の非対称性と貸借
- 4 貨幣とは何か？
- 5 家計の行動 1
- 6 家計の行動 2
- 7 完備市場 (Arrow-Debreu型経済)
- 8 貨幣効用 1
- 9 貨幣効用 2
- 10 消費に貨幣が必要となる経済
- 11 世代重複経済 1
- 12 世代重複経済 2
- 13 欲求の一致と貨幣 1
- 14 欲求の一致と貨幣 2 (Kiyotaki-Wrightの議論)
- 15 経済停滞と貨幣
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート, 出席, テスト, その他を加味し評価。

【テキスト】

適宜レジュメを配布し、講義を行う。

【参考文献】

Walsh, Carl E. “Monetary Theory and Policy”, 2010, MIT Press third版;

小野善康, “金融” 第2版, 2009, 岩波書店;

斎藤誠, “新しいマクロ経済学”, 2006, 有斐閣;

貨幣経済論Ⅱ

担当教員 松崎 大介

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、日々の経済活動に用いる貨幣が経済に与える影響について議論する。ミクロ経済学で考えられる一般的な均衡では貨幣の存在は均衡の成立に必要な条件ではない。一方、我々の日常生活には貨幣は常に用いられている。経済モデルへの貨幣の導入に関しては様々な議論がなされており、本講義ではこれらの議論を概観する。

【授業の展開計画】

- 1 イン트로ダクション
- 2 国内政策と為替1
- 3 国内政策と為替2
- 4 国際貿易と公共政策1
- 5 国際貿易と公共政策2
- 6 国際交易の理論1
- 7 国際交易の理論2
- 8 貨幣の中立性と実物景気循環理論1
- 9 貨幣の中立性と実物景気循環理論2
- 10 担保制約と景気循環1
- 11 担保制約と景気循環2
- 12 貨幣と記憶
- 13 行動経済学からの分析
- 14 貨幣の非中立性と政策への影響
- 15 まとめ
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート、出席、テスト、その他を加味し評価。

【テキスト】

適宜レジュメを配布し、講義を行う。

【参考文献】

Walsh, Carl E. “Monetary Theory and Policy”, 2010, MIT Press third版;
小野善康, “金融” 第2版, 2009, 岩波書店; 斎藤誠, “新しいマクロ経済学”, 2006, 有斐閣;
藤井英治, “国際金融論”, 2006, 新世社; 竹森俊平, “国際経済学”, 2000, 東洋経済新報社

基礎演習 I

担当教員 安藤 由美、庵原 さおり、名嘉座 元一、松崎 大介、崎浜 靖、金城 敬太 (6クラス)

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これから大学で学ぶにあたって、必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新生は戸惑うことが多いようです。本基礎演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。演習のテーマ・内容は、1. 大学生として身につけておくべき「社会常識」2. レポートやプレゼンテーションに必要な「国語能力」3. 経済学を学ぶために必要な「基礎数学」の3つです。

【授業の展開計画】

「社会」「国語」「数学」の3つを、4～5回ずつ行う予定です。主な内容は以下の通りです。

社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。

国語能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。

基礎数学：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。難易度は、中学から高校程度である。

【履修上の注意事項】

クラス分けがされていますので、それに従って登録してください。その他詳しい説明は、第一回目の講義にて行います。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席およびレポートにより総合的に評価します。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』専修大学出版社

【参考文献】

講義時に、適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 安藤 由美、庵原 さおり、名嘉座 元一、松崎 大介、崎浜 靖、金城 敬太（6クラス）

対象学年 1年

開講時期 後期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で学んだ基礎演習Ⅰを踏まえて、自分たちでテーマを設定してそれをみんなで考えて発表していくような演習を行います。そのため、グループに分かれ設定したテーマにもとづき、統計データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマを深く追求していきます。クラスの中で発表し合うことによって、違った考えや意見があることを知り、また自分の意見を発表することができるようになります。後半には、クラス対抗のプレゼン大会を行い、競争を通じ楽しくプレゼン能力や課題解決能力などを磨いていきます。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週～第8週 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク

第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会、

【履修上の注意事項】

出席とグループでの発言内容、参加態度を重視する。全体の3分の1を欠席すると不可とする。

【評価方法】

出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス－新入生援助集－』専修大学出版社

【参考文献】

講義時に、適宜指示する。

基礎演習Ⅲ

担当教員 安藤 由美、庵原 さおり、宮城 和宏、湧上 敦夫、梅井 道生、新垣 勝弘、名嘉座 元一、松崎 大介（8クラス）

対象学年 2年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週～15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方など

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：4月の開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 安藤 由美、庵原 さおり、宮城 和宏、湧上 敦夫、梅井 道生、新垣 勝弘、名嘉座 元一、松崎 大介（8クラス）

対象学年 2年

開講時期 後期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週－15週 レポートの発表、テーマ別グループ報告、グループ間ディベートなど

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：後期開講時に指示する

【参考文献】

キャリアデザイン論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

様々な分野で活躍している先輩や経営者などにゲストとして来てもらい、話を聞きながらディスカッションを行う。就職意欲を高めることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

毎回ゲストを呼ぶ予定

【履修上の注意事項】

講義内容については初回講義時に知らせるため、履修希望者は初回講義時に確認すること。
なお、登録は2年次優先とし、空きがあれば他の学年も登録可能とする。

【評価方法】

出席及びレポートの提出状況を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

必要に応じて講義中に指示する。

【参考文献】

経営学 I

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、特定業界を事例に取り上げながら、企業とは何か、経営とは何かなどを考えることが目的である。また、大企業や中小企業、経営組織や経営戦略、経営の歴史や現状など幅広く経営学の入門科目として講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の説明と評価の方法について
2	経営学とは何か？
3	規制緩和と企業経営
4	食品企業の経営
5	タバコ企業の経営
6	通信企業の経営
7	道路関係企業の経営
8	中間試験
9	戦争ビジネス①
10	戦争ビジネス②
11	電力企業の経営
12	醸造企業の経営
13	企業経営の理解
14	企業の社会的責任
15	経営学 I のまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語・講義中の携帯電話などは禁止である。
- (2) 後期開講の「経営学Ⅱ」との連続履修が望ましい。
- (3) 講義開始30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年

【参考文献】

学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。

経営学Ⅱ

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、「経営学Ⅰ」の応用科目と位置づける。大企業や中小企業の経営を基礎に、昨今、一部の企業で取り組まれている社会的企業、ソーシャルビジネス、ソーシャルレンディングなどについて触れ、企業の形態や社会貢献の相違などを比較しながら、企業とは何か、経営とは何かという課題に理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の説明と評価の方法について
2	企業の目的、組織、形態
3	ビジネスを理解するための用語解説
4	社会貢献ビジネス
5	社会的企業と公益事業
6	データ比較による企業理解
7	労働と企業
8	中間試験
9	企業の変遷
10	ベンチャービジネス
11	社会的排除と経営学
12	貧困ビジネスの現状と課題
13	企業の本質
14	社会的企業とNPO
15	経営学Ⅱのまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

前期開講の「経営学Ⅰ」からの履修が望ましいが、履修条件ではない。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年

【参考文献】

学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。

景気変動論

担当教員 宮田 亮

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生産や消費が活発な時期もあれば停滞する時期もあるように、私たちが暮らす経済では活動水準が日々変動しています。こうした変動を景気変動と呼びます。この授業では、景気とはそもそも何か、景気変動がなぜ生じるのか、その過程でどのようなことが生じるのか、それに対しどのように対処すべきか、という問題について学びます。景気変動に対する理解を深め、政府、中央銀行による景気安定化政策について考察できるようになることが目標です。

【授業の展開計画】

はじめに景気、景気変動とは何かを学び、日本や各国の景気変動を概観します。次に景気変動の過程でどのようなことが生じるかを検討します。その後景気変動が生じるメカニズムについて理論的に考察し、最後に景気変動に対する政府や中央銀行の政策について学びます。

- 1 インTRODakション
- 2 景気・景気変動とは何か
- 3 景気変動の測定
- 4 日本および各国の景気変動
- 5 消費と景気変動
- 6 投資と景気変動
- 7 外国と景気変動
- 8 物価と景気変動
- 9 雇用・労働と経済変動
- 10 金融部門と景気変動
- 11 景気変動のメカニズム 古典的議論
- 12 景気変動のメカニズム 新古典派景気循環理論
- 13 景気変動のメカニズム 新ケインズ派の景気循環理論
- 14 マクロ安定化政策1 財政政策
- 15 マクロ安定化政策2 金融政策
- 16 学期末試験

【履修上の注意事項】

マクロ経済学の知識が必須です。

【評価方法】

期末試験により評価、60点以上を合格とします。

【テキスト】

指定しません。講義内容をまとめたプリントを配布します。

【参考文献】

「景気ってなんだろう」 岩田規久男(著) ちくまプリマー新書

「最新景気観測入門」 小峰隆夫(著) 日本評論社

「マンキューマクロ経済学II【応用篇】」 マンキュー(著)足立他(訳)、東洋経済新報社

経済学史 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済の理論は、ある日突然経済学者の脳裏に出現したものではない。それは優れてその時代の歴史的状況に支配されている。現代に生きるわれわれにとって、過去の歴史を知ることが、ある意味で、現代社会の成り立ちを知ることに通じる。そのような意味で、歴史を知ることがきわめて重要である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要説明等、ビデオによるイギリス紹介 (Adam. Smithの生誕地、グラスゴー大学、墓等)
2	スコットランド学派とAdam. Smith
3	Adam . Smith の生涯
4	スコットランド啓蒙と「道徳感情論」
5	「国富論」と分配の法則
6	価値論と分配論
7	産業革命の完成とD. Ricardoの経済学
8	イギリスと対外貿易
9	D. Ricardoの生涯
10	「経済学および課税の原理」の構造
11	価値論と分配論
12	古典派経済学の終焉
13	J. S. Millの「自由論」と「婦人解放論」
14	T. R. Malthus『人口論』
15	古典派経済学の総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため毎回の出席が必要である。
2年次優先。抽選となった場合は経済学科を優先する。

【評価方法】

定期試験、レポート等で評価する。

【テキスト】

開講時に追って指示する。

【参考文献】

開講時に追って指示する。

経済学特別講義 I (経済理論及び政策)

担当教員 平賀 一希

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義 (世話役: 庵原さおり)

【授業のねらい】

日本では、1990年以降「失われた20年」と呼ばれるほど、1980年代と比べ経済成長率が低迷している。この授業では、(1)なぜ1990年以降の日本は経済が低迷しているのか、(2)どのようにしたら日本はより高い経済成長を達成できるのかについて様々な視点から論点を提供する。その上で、履修者にこれらの問題について、自分なりの考えを持ってもらうことを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	何が日本の経済成長を止めたのか(1): 高度成長の終焉
3	何が日本の経済成長を止めたのか(2): 高齢化と経済成長
4	何が日本の経済成長を止めたのか(3): 輸出主導型の経済成長
5	何が日本の経済成長を止めたのか(4): 成長を阻害するもの
6	何が日本の経済成長を止めたのか(5): 小泉改革の評価
7	経済改革の成功と挫折(1): 金融システム改革
8	経済改革の成功と挫折(2): 郵政民営化
9	経済改革の成功と挫折(3): 労働市場改革
10	経済改革の成功と挫折(4): 農業改革とFTA政策
11	経済改革の成功と挫折(5): 構造改革特区
12	経済改革の成功と挫折(6): 地方財政改革
13	日本再生のための処方箋(1): 規制改革
14	日本再生のための処方箋(2): 開放政策
15	日本再生のための処方箋(3): マクロ経済政策の改善
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験および平常点(出席だけではなく、講義内での積極的に議論、発言すること)を勘案して評価する

【テキスト】

【参考文献】

星岳雄、アニル・カシャップ「何が日本の経済成長を止めたのか—再生への処方箋」、2013年、日本経済新聞出版社

経済学特別講義Ⅲ（日本経済事情）

担当教員 加藤 尚子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義（世話役：安藤由美）

【授業のねらい】

国民生活の基盤となっている社会保障制度のうち、医療について詳しく学ぶ。医療の現状を正しく理解した上で、現状の問題点について考える。また医療が今後どうなっていくのが好ましいのか、その場合経済にどのような影響がでるのかを検討する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業の概要説明、医療と経済の関係
2	医療提供体制
3	医療法
4	医療保険
5	国民医療費
6	診療報酬
7	安全管理
8	医療の質の評価
9	病院における労働
10	グループディスカッション
11	病院の組織／医師不足
12	病院のマネジメント
13	医療を必要とする人たち
14	患者満足
15	21正規の医療提供体制：地域連携と経済
16	

【履修上の注意事項】

出席重視。レポート提出が必須。

【評価方法】

出席状況、発言内容、レポートに基づき総合評価する。

【テキスト】

【参考文献】

特に指定なし

経済学入門

担当教員 宮城 和宏（他、複数教員）

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学の入門的な内容について学習する。経済学科の専門科目（専任）担当者全員がそれぞれの専門分野の入門的内容ををわかりやすく、かみ砕いて講義することにより、経済学とはどのような分野なのかを直感的に理解してもらいたい。多くの学生が経済学に関心を持てるようになることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法、その他について（宮城）
2	入門・産業組織論（宮城）
3	入門・ファイナンシャルプランニング（安藤）
4	入門・社会保障論（庵原）
5	入門・インターネット経済学（浦本）
6	入門・公共経済学（松崎）
7	入門・日本経済論（湧上）
8	入門・経営学（村上）
9	入門・経済地理（崎浜）
10	入門・経済史（梅井）
11	入門・労働経済学（名嘉座）
12	入門・計量経済学（金城）
13	入門・財政学（庵原）
14	入門・企業分析（安藤）
15	総括（宮城）
16	テストまたはレポート（宮城）

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等は自重し、マナーを守ること。

【評価方法】

テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。
受講生の頑張りを評価したい。

【テキスト】

特に、指定しない

【参考文献】

経済史入門

担当教員 梅井 道生

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人類の誕生とともに、人々は経済活動を営んできた。それはまず、衣？食？住に関する基本的なものであった。その後人類は、文化を築き、文明を発達させてきた。経済史とは、文字通り経済の歴史を研究する学問であるが、だからといって古代社会から現代までを対象にするわけではない。なぜかといえば、歴史はある意味で記録でもあるから、文字の発達を前提にするからである。したがって、この講義では、中世から近世にかけてのヨーロッパ経済史を対象に、近代社会がいかにして成立したのかを中心に考えて行きたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価方法などの説明
2	中世の農業の特徴
3	中世都市の発達
4	商業の発達
5	貿易の発達
6	重商主義政策の成立
7	中世封建体制の崩壊
8	近代議会制度の成立
9	イギリスの状況
10	フランスの状況
11	ドイツの状況
12	アメリカの独立
13	世界市場の成立
14	イギリスにおける農村工業の発達
15	産業革命前夜
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実を積み重ねて全体を理解するという性格の講義であるから、毎回の出席が望ましい。抽選となった場合は、1年次優先予定。

【評価方法】

試験、レポート等による。

【テキスト】

イギリスで求めた経済史のテキストをプリントして配布予定。したがってある程度の英語力が必要。

【参考文献】

開講時に指示する。

経済社会学

担当教員 村上 了太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、経済と社会のあり方に対して理解を深めることに目的がある。理解を深めるには、①私たちが日常生活を送るだけでも様々な課題が生じているという視点に立つこと、②その視点を下に、私たちに何ができるかを探し出すこと、という二つのステップを踏んでいく。二つのステップを踏んでいく際に、手法として位置づけられるものがビジネスである。ビジネスを通して生じた問題ならばビジネスを通して解決していくという方向性が展開されていく。そしてそのビジネスとは経済においてどのような役割を果たしているのか、講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法、その他について
2	成長社会から成熟社会への転換
3	雇用環境や経営システムの転換
4	社会課題の出現（概要）
5	社会課題①（貧困）
6	社会課題②（地域振興）
7	社会課題③（環境問題，地球温暖化問題）
8	中間試験
9	企業の社会的責任（CSR）
10	慈善型ソーシャルビジネス
11	事業型ソーシャルビジネス
12	マイクロファイナンス
13	ソーシャルレンディング（社会的金融）
14	ソーシャルキャピタル（社会関係資本）
15	講義の総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等を自重し、マナーをも守ってもらいたい。

【評価方法】

テストの成績、レポート、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。
受講生の頑張りを評価するようにしたい。

【テキスト】

開講時に連絡する。

【参考文献】

毎回の講義で参考文献を提示する。

経済書講読 I

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「経済学」とは何でしょうか。実は皆さんの学生生活の中にも、経済学は存在しています。この講義では、教科書購入、アルバイトなど学生生活上の行動を経済学の視点から考え、議論します。新聞の読み方も学習します。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 経済学とは？
- 3 キャンパスライフの損得勘定
- 4 教科書を買うに行こう
- 5 コンパに参加
- 6 新聞の読み方（1）
- 7 バイトをしたい
- 8 恋愛と経済
- 9 授業に出るか出ないか
- 10 新聞の読み方（2）
- 11 就職に備えて（1）
- 12 就職に備えて（2）
- 13 新聞の読み方（3）
- 14 卒業後の人生選択（1）
- 15 卒業後の人生選択（2）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

中北徹・上村敏之 『改訂 キャンパス・ライフの経済学』 経済法令研究会 2005

経済情報処理 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、統計のソフトウェアを利用し、経済に関するデータ、購買データや時系列データなど様々なデータを分析する方法について学びます。なじみのないプログラミングに慣れることを前半は重視し、分析ができるようになるまでを目標としています。またどのようなところからデータを入手するのか、そしてどのようにデータを作成するかについても学ぶ予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入
2	Rプログラミング
3	Rプログラミング
4	カイ2乗検定
5	単回帰分析
6	重回帰分析
7	重回帰分析
8	分散分析
9	不均一分散
10	回帰分析（時系列データ）
11	回帰分析（時系列データ）
12	一般化線形モデル
13	一般化線形モデル
14	持続期間・生存時間データ解析
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

なし

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【テキスト】

授業中に指定。

【参考文献】

<http://cran.r-project.org/doc/contrib/Farnsworth-EconometricsInR.pdf>

経済情報処理Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、経済情報処理Ⅰで学んだデータ処理の方法をもとに経済学に関する具体的なテーマを取り上げ、応用およびデータ処理ができるようにします。より具体的には、重回帰分析や、因子分析、分散分析について概念的に学びながら、実際にソフトウェアで分析を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画
2	分散 標準偏差、相関係数の算出
3	回帰分析（理論）
4	回帰分析（実際のデータを用い推計する）
5	回帰分析（単回帰モデルの構築と推計 気温とパインの糖度の関係は？）
6	回帰分析（重回帰モデルの構築と推計 コンビニの売り上げの要因は？）
7	都道府県社会指標の作成
8	因子分析によるデータ解析（理論）
9	因子分析によるデータ解析（推計Ⅰ 消費者の好みを分析する）
10	因子分析によるデータ解析（推計Ⅱ 社会指標を使った分析）
11	分散分析Ⅰ（分散分析の考え方 どの時計が最も精確？）
12	分散分析Ⅱ（1要因による分散分析 どの店のハンバーグが美味しいか？）
13	分散分析Ⅲ（2要因による分散分析 味付けの好みは あなたは甘党、辛党？）
14	市町村データを用いた量的データ解析の応用Ⅰ：県内市町村をランク付けしてみよう
15	市町村データを用いた量的データ解析の応用Ⅱ： 々
16	後期のまとめ

【履修上の注意事項】

経済統計を履修していると理解しやすい。

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【テキスト】

授業中に指定。

【参考文献】

福地純一郎、伊藤有希「Rによる計量経済分析（シリーズ〈統計科学のプラクティス〉）」朝倉書店
<http://cran.r-project.org/doc/contrib/Farnsworth-EconometricsInR.pdf>

経済数学 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、消費者や企業の意思決定など経済学の様々な場面で利用されている最適化について学びます。そのために基礎となる微分について復習を前半で行い、後半でこれらを用いて最適化問題を解いていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入
2	集合論・関数の復習
3	微分積分の復習
4	微分積分：微分と関数の極値
5	微分積分：関数の展開
6	微分積分：不定積分・定積分
7	微分積分：偏微分
8	微分積分：中間テスト
9	微分積分：テーラーの公式と極値
10	微分積分：ベクトル微分と条件付き極値問題
11	最適化：目的関数、凸関数、凹関数
12	最適化：古典的方法
13	最適化：ラグランジュ未定乗数法
14	最適化：非線形計画法
15	動学最適化の紹介：まとめ
16	

【履修上の注意事項】

数学2・Bまでの微分積分を履修していることが望ましい。

【評価方法】

中間テストとレポートにより判断する

【テキスト】

授業中に指定

【参考文献】

A. C. チャン, K. ウェインライト「現代経済学の数学基礎<上><下>」シーエーピー出版; 第4版
西村清彦「経済学のための最適化理論入門」東京大学出版会

経済数学Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、今日の経済学を考えるうえでは欠かせない、個人の意味決定の理論および、複数の個人・企業の意味決定の理論としてゲーム理論の数理を学びます。それぞれ問題や事例を取り上げて説明していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入
2	意思決定：バイアス
3	意思決定：確率と統計
4	意思決定：リスク下の意思決定
5	意思決定：不確実性下の意思決定
6	意思決定：幸福感
7	中間テスト
8	ゲーム理論：ゲーム理論とは
9	ゲーム理論：非協力ゲーム・戦略形ゲーム
10	ゲーム理論：非協力ゲーム・ナッシュ均衡
11	ゲーム理論：非協力ゲーム・展開ゲーム
12	ゲーム理論：非協力ゲーム・チェーンストアパラドックス、繰り返しゲーム
13	ゲーム理論：不完全情報ゲーム
14	ゲーム理論：協力ゲーム
15	最終レポート
16	

【履修上の注意事項】

数学Ⅰ・Aを理解していることが望ましい

【評価方法】

中間テストおよびレポートをもとに判断します

【テキスト】

武藤滋夫「ゲーム理論入門」日経新聞社

【参考文献】

経済成長論

担当教員 庵原 さおり

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、世界経済が抱える問題・課題と日本経済が抱える問題・課題について、順に説明します。そして最終的には、受講者が講義で学んだ知識をもとに、現実の経済問題・社会問題について自分なりに説明できるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ギリシャの財政危機と欧州危機
- 第3回 各国の金融・財政問題
- 第4回第5回 様々な問題を考えるためのブレインストーミングの方法を学ぶ
- 第6回第7回 リーマンショックと世界金融危機
- 第8回第9回 資本主義について考える
- 第10回第11回 日本の選挙と議会について考える
- 第12回から第14回 ナッシュ均衡と経済学的思考方法に触れる
- 第15回 まとめ

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

レポートを6回書いてもらいます。
そのレポートと出席状況をもとに評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

特に指定しません。

経済地理 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理 I では、古典的な経済立地に関する諸理論の概要を通して、経済地理学の研究方法と視角、さらに諸産業（農業・工業）などの立地特性について、過去と現在を比較しながら検討する予定である。

【授業の展開計画】

講義は関連するプリント・資料の配布、ビデオなどを利用して講義を進める。

1. 講義説明
2. 世界の農業地域
3. 農業立地論①ーチューネンの農業立地論ー
4. 農業立地論②ーチューネンモデルの意義、チューネン圏の事例ー
5. 農業立地論③ー現代日本の農業立地ー
6. 沖縄県の農業
7. 沖縄県離島部の農業立地
8. 工業立地論①ーウェーバーの工業立地論ー
9. 工業立地論②ーウェーバー理論の実際ー
10. 工業立地論③ーウェーバー以後の工業立地論ー
11. 工業立地論④ー日本の工業地域ー
12. 工業の立地政策①ー日本の工業立地の現状ー
13. 工業の立地政策②ーヨーロッパ・北アメリカ各国の工業政策ー
14. 工業の立地政策③ー中国、東南アジア各国の工業政策ー
15. 農業立地論・工業立地論による空間構造の把握
16. 試験

【履修上の注意事項】

出席を重視する。講義中は私語、遅刻や途中退席はないように注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席点とレポート、期末試験などで総合的に判断する。期末試験は本・ノート・配布資料など、持ち込みは「不可」で、記述形式で行う予定。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジユメを配布する。

【参考文献】

富田和暁（1996）『地域と産業ー経済地理学の基礎ー』大明堂。
ディビット・グリッグ（山本正三ほか訳）：『農業地理学入門』原書房。

経済地理Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理Ⅱでは、中心地理論とオフィスの立地を中心とする都市・商業空間の編成過程を検討する。さらに、近年の観光地形成に関わる問題点を比較考察することにより、受講生が商業や観光による地域振興のあり方を考える講義としたい。

【授業の展開計画】

講義は関連するプリント・資料の配布、ビデオなどを利用して講義を進める。

1. 人文地理学・経済地理学の概要
2. 中心地の立地理論①－クリスタラーの中心地研究－
3. 中心地の立地理論②－中心地体系の動態論－
4. 中心地の立地理論③－中心地理論に関する実証的研究－
5. 商業空間①－小売業の立地－
6. 商業空間②－中心市街地の変容と再生－
7. 商業空間③－商業空間のネットワーク－
8. 商業空間④－オフィス立地の現在と将来－
9. 商業空間⑤－市街地のオフィス立地－
10. 商業空間⑥－那覇市都心部のオフィス立地の特徴－
11. 観光産業と地域①－世界の観光地域－
12. 観光産業と地域②－ヨーロッパ地域の観光地域－
13. 観光産業と地域③－日本の観光地域－
14. 観光産業と地域④－沖縄の観光－
15. 観光産業と地域⑤－島嶼部の観光－
16. 試験

【履修上の注意事項】

出席を重視する。私語、遅刻や途中退席はないよう注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席や試験、講義時の作業物の提出や講義内容の感想および講義への参加姿勢で総合的に判断する。期末試験は、本・ノート・配布資料などの持ち込みは「不可」で、記述形式で行う。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』、大明堂。
山村順次（1995）『新観光地理学』、大明堂。

経済データ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、調査・研究のための経済データの見方、扱い方について学ぶことを目的とする。調査研究は、知りたい事柄を明らかにするために調べることであり、何か分からないことや判断を下したり、行動を起こしたりするために必要となる情報を収集し、体系的に整理することである。したがって、経済データを見るためには、まず、調査の目的を明確にし、必要に応じたデータを効率的に集め、次に統計の癖や限界を知ること、観測されたデータを鵜呑みにするのではなく、背後にある要因について十分に注意を払う必要がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	経済分析の目的
3	経済分析における問題意識、問題形成
4	様々な経済データ
5	データ処理Ⅰ（平均、中央値、最大、最小、分散について）
6	データ処理Ⅱ（所得格差、ジニ係数の測定など）
7	経済財政白書など白書を用いたデータ分析
8	マクロ経済データ分析Ⅰ（GNPなど）
9	マクロ経済データ分析Ⅱ（各国比較、貧しい国と豊かな国）
10	県民所得のデータ分析（都道府県比較、沖縄は貧しい県か？）
11	所得格差関連のデータ（学力格差と所得格差の関係 沖縄の学力が低いのはなぜ？）
12	簡単な相関分析Ⅰ（相関関係とは）
13	簡単な相関分析Ⅱ（アイスクリームの売り上げと気温は関係あるか）
14	市町村の社会経済データⅠ（人口、市町村民所得、産業構造）
15	市町村の社会経済データⅡ（社会指標など）
16	テーマ分析とレポート提出要領

【履修上の注意事項】

講義の最後にはテーマを与え、レポートを提出する

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出と試験を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とする。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

特になし。その都度演習用の素材は提供する。

経済統計 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、経済に関する統計について学びます。具体的に、経済指標に関する話題やその背後の考え方、そして因果関係を探るために利用される回帰分析などについて具体的に勉強していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済統計（経済統計、計量経済、統計学の違い）
2	統計復習
3	経済指標：どのような指標があるか
4	経済指標：SNA
5	経済指標：景気指標
6	経済指標：ローレンツ曲線、ジニ係数
7	産業連関表：その1
8	産業連関表：その2
9	中間テスト
10	確率モデル
11	回帰分析：回帰
12	回帰分析：重回帰分析
13	回帰分析：変換、ダミー変数、マルチコ
14	構造方程式：構造変化、予測
15	構造方程式：系列相関、ラグ付き変数
16	

【履修上の注意事項】

統計関連課目を履修しているとわかりやすい。

【評価方法】

出席、中間テスト、レポートで判断。

【テキスト】

田中勝人「経済統計」岩波書店

【参考文献】

なし

経済統計Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々は、消費、学校、職場など数多くの場面で選択を行っています。本講義では、ミクロ経済における実証を視野にいれながら、人々がモノを選んだりすることをどのようにモデル化し、それらを統計的に実証していくかについて勉強します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入
2	離散選択モデル
3	2値選択モデル
4	2値選択モデルの推定1
5	2値選択モデルの推定2
6	2値選択モデルの最近の動向
7	多選択のロジットモデル
8	多選択のロジットモデル：条件付きロジットモデル、入れ子型ロジットモデル
9	多選択のロジットモデル：階層モデル
10	順序ロジットモデル
11	計数データのモデル1
12	トービットモデル
13	持続時間モデル
14	新たな消費者モデル：マーケティングサイエンス
15	新たな消費者モデル：マーケティングサイエンス
16	

【履修上の注意事項】

統計に関する基礎、ミクロ経済学についてある程度理解していることが望ましい。
また、場合により、最新の消費者モデルなどの紹介を行う。

【評価方法】

出席、中間テスト、レポートで判断。

【テキスト】

授業中に指示

【参考文献】

William H. Greene 「グリーン計量経済分析」エコノミスト社

公共経済学

担当教員 松崎 大介

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、制度や政策（選挙制度、規制、課税政策など）が社会に如何なる影響を与えるのかについて学ぶことにある。講義を通じ、各種政策の持つ経済への正負両面の影響を理解してもらいたい。

【授業の展開計画】

1. イントロダクション
2. 市場と政府
3. 選挙と投票行動1
4. 選挙と投票行動2（アローのパラドックス）
5. 政党と政策
6. 政府の規制1
7. 政府の規制2
8. 外部性とその対策1
9. 外部性とその対策2
10. 公共財1
11. 公共財2
12. 課税1
13. 課税2
14. 年金1
15. 年金2
16. 期末考査

【履修上の注意事項】

ミクロ経済学を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

出席、提出物、期末試験など

【テキスト】

適宜レジュメを配布し、講義を行う。

【参考文献】

井堀利宏，“公共経済学基礎コース”，新世社；J.E. スティグリッツ，“スティグリッツ 公共経済学（上）（下）”，東洋経済新報社；J.E. スティグリッツ，“ミクロ経済学 第4版”，東洋経済新報社；八田達夫，“ミクロ経済学 I・II”，東洋経済新報社；

国際金融論 I

担当教員 島袋 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国際金融の現状に、受講者が関心を持ち自発的に学習する意欲を持たせることをねらいとする。そのために時事問題の理解に必要となる国際金融の基礎知識を学習する。具体的には、国際収支、為替レートの決定理論、為替リスクヘッジの手法、為替レートと貿易などを初学者にもわかりやすく解説する。教科書は指定しないが、国際金融論の教科書として出版されたものであれば、講義と大きくずれることはないので各自読みやすいものを選び復習することが望ましい。評価は筆記試験（50%）、グループ報告（50%）である。グループ報告のテーマは講義中に指示する。将来、金融関係の職業を目指すものに受講を勧める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンスーこの講義で学ぶことー
2	マクロ経済学の復習ー国民所得勘定, 国際収支ー
3	外国為替のしくみ
4	為替リスクヘッジの手法（1）
5	為替リスクヘッジの手法（2）
6	為替レートの決定理論（1）ー購買力平価説、金利平価説、UIPとCIP、ー
7	為替レートの決定理論（2）ーオーバーシュート・モデルー
8	為替レートと貿易（1）ー弾力性アプローチー
9	為替レートと貿易（2）ーISバランスアプローチー
10	マンデル=フレミングモデル（1）
11	マンデル=フレミングモデル（2）
12	筆記試験
13	グループ報告（1）
14	グループ報告（2）
15	グループ報告（3）
16	グループ報告（4）

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更する場合があります。
- ・後期の「国際金融論Ⅱ」は「国際金融論Ⅰ」の知識を前提に行うのでⅠ・Ⅱセットで履修することをおすすめします。
- ・関連科目：「金融論Ⅰ・Ⅱ」「国際経済論Ⅰ・Ⅱ」、「経済発展論Ⅰ・Ⅱ」

【評価方法】

筆記試験（50%）、グループ報告（50%）の合計。

※筆記試験は自筆ノートのみ参照可

※筆記試験およびグループ報告は出席2/3以上を条件とする。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

「コア・テキスト国際金融論」藤井英次（著）新世社、「国際金融のしくみ」秦忠夫・本田敬吉（著）有斐閣

国際金融論Ⅱ

担当教員 島袋 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国際金融の現状に受講者が関心を持ち、自発的に学習する意欲を持たせることをねらいとする。前期の「国際金融論Ⅰ」の知識を前提とする。時事問題をテーマとして扱い、経済理論に基づいた分析を行う。具体的には、近年の金融危機、ヨーロッパの通貨統合、開発金融、通商問題などを初学者にもわかりやすく解説する。教科書は指定しないが、講義中に講義テーマに関連する本を紹介するので、復習することが望ましい。評価は筆記試験（50%）と個人報告（50%）の総合点とする。将来、金融関係の職業を目指すものに受講を勧める。時事問題を扱うため、講義内容を変更する場合がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンスーこの講義で学ぶことー
2	国際金融取引（1）ー国際収支の日米比較、国際金融市場ー
3	国際金融取引（2）ー銀行業務の国際化・機関投資家の国際投資ー
4	為替制度の歴史、為替制度の種類
5	ヨーロッパの通貨統合
6	金融危機（1）ー南米債務危機、アジア通貨危機ー
7	金融危機（2）ーサブプライムローン危機ー
8	金融危機（3）ー欧州金融危機ー
9	貿易・投資の自由化ー日本の通商問題ー
10	途上国における開発金融（1）
11	途上国における開発金融（2）映像視聴
12	筆記試験
13	個人報告（1）
14	個人報告（2）
15	個人報告（3）
16	個人報告（4）

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・「国際金融論Ⅱ」は、前期の「国際金融論Ⅰ」の知識を前提に行うので、Ⅰ・Ⅱセットで履修することを勧めます。
- ・関連科目：「金融論Ⅰ・Ⅱ」、「国際経済論Ⅰ・Ⅱ」、「経済発展論Ⅰ・Ⅱ」、「アジア経済と環境」、「アジア経済論Ⅰ・Ⅱ」、「欧米経済論Ⅰ・Ⅱ」

【評価方法】

筆記試験（50%）、個人報告（50%）。
 ※筆記試験および個人報告は出席が2/3以上であることを条件とする。
 ※筆記試験は自筆ノートのみ参照可能。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

「コア・テキスト国際金融論」藤井英次（著）新世社、「国際金融のしくみ」秦忠夫・本田敬吉（著）有斐閣

国際経済論 I

担当教員 当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学部(2013年)の地域環境政策学科の国際経済論Iを参照してください。以下の授業の展開計画をはじめ、他の項目についても同様である。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国際経済論 II

担当教員 当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

2013年度の経済学部の地域環境政策学科における国際経済論IIを参照してください。以下の授業の展開計画をはじめ、他の項目についても同様となります。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

産業政策論

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

産業政策はその国や地域の経済発展を遂げるための戦略として重要である。この講義では、理論や歴史などからの視点で日本の産業政策を中心に考えていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	概要説明 -産業政策とは何か-
3	市場の失敗、政府の失敗
4	幼稚産業保護論
5	輸入代替・輸出指向による工業化
6	日本の産業発展（雁行形態論）
7	産業政策と構造調整政策
8	中間試験
9	個別産業政策① -鉄鋼-
10	個別産業政策② -石炭・石油-
11	個別産業政策③ -海運・造船-
12	個別産業政策④ -電力-
13	個別産業政策⑤ -航空-
14	個別産業政策⑥ -自動車-
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

特になし。プリント等をその都度配布する

【参考文献】

講義にて紹介する。

産業組織論 I

担当教員 宮城 和宏

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

産業組織論は、様々な業界の市場構造、企業の行動パターン・戦略、政府の規制・競争政策等を分析対象とする現実的かつエキサイティングな学問分野である。新聞紙上では企業の開業・廃業、企業戦略、談合やカルテル、合併や買収など産業組織論に関する話題が毎日のように賑わっている。この講義では、これらの話題を経済学はどのように分析し、評価し、政策提言を行うのかについて考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容の紹介、評価方法、注意事項等
2	産業組織論の2つの主なアプローチ
3	完全競争と不完全競争
4	費用の諸概念と企業の行動
5	独占企業の価格設定
6	自然独占と規制
7	市場の確定・市場構造
8	集中度の指標
9	参入の経済効果
10	コンテストブル市場理論
11	参入規制の経済効果と規制緩和
12	独占的競争
13	産業組織論とファイブ・フォース分析
14	〃
15	総括
16	テスト

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席態度、授業への参加度、期末試験等で総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

特になし。

産業組織論Ⅱ

担当教員 宮城 和宏

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

産業組織論は、様々な業界の市場構造、企業の行動パターン・戦略、政府の規制・競争政策等を分析対象とする現実的かつエキサイティングな学問分野である。新聞紙上では企業の開業・廃業、企業戦略、談合やカルテル、合併や買収など産業組織論に関する話題が毎日のように賑わっている。この講義では、これらの話題を経済学はどのように分析し、評価し、政策提言を行うのかについて考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容の紹介、評価方法、注意事項等
2	ゲーム理論の基礎
3	寡占市場での価格と生産量
4	クールノー競争
5	寡占の市場構造
6	様々な寡占企業の行動
7	〃
8	〃
9	共謀と強調
10	〃
11	合併・買収 (M&A)
12	〃
13	技術革新と知的財産権
14	〃
15	総括
16	テスト

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席態度、授業への参加度、期末試験等で総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

特になし。

財政学 I

担当教員 庵原 さおり

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、財政学に関する基礎的な理論および概念を順に説明します。なお、理論的な分析にとどまらず、現実の財政政策・財政問題と比較した議論も随時取り入れたいと思います。そして最終的には、受講者が講義で学んだ知識をもとに、現実の財政に絡む議論について自分なりに説明できるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション：財政とは何か
- 第2回 財政の役割
- 第3回 日本の財政運営
- 第4回 経済分析の基本ツール
- 第5回 続き
- 第6回 市場の失敗（1）：市場と効率性
- 第7回 続き
- 第8回 市場の失敗（2）：外部性
- 第9回 続き
- 第10回 市場の失敗（3）：公共財
- 第11回 続き
- 第12回 所得再分配政策（1）：社会厚生、再分配政策
- 第13回 続き
- 第14回 所得再分配政策（2）：効率性と再分配政策
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。
- ・ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済み、もしくは履修中であることが望ましいです。

【評価方法】

出席と期末試験の結果をもとに評価します。

【テキスト】

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年

【参考文献】

- 井堀利宏『財政（第3版）』岩波書店、2008年
- 小塩隆士『コア・テキスト財政学』新世社、2002年
- 上村敏之『はじめて学ぶ国と地方の財政学』日本評論社、2005年

財政学Ⅱ

担当教員 庵原 さおり

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、財政学Ⅰと同様、財政学に関する基礎的な理論および概念を順に説明します。なお、理論的な分析にとどまらず、現実の財政政策・財政問題と比較した議論も随時取り入れたいと思います。そして最終的には、受講者が講義で学んだ知識をもとに、現実の財政に絡む議論について自分なりに説明できるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 政府介入の意義（1）：景気安定化機能
- 第3回 続き
- 第4回 政府介入の意義（2）：公営企業、規制産業
- 第5回 続き
- 第6回 政府介入の意義（3）：政府の失敗
- 第7回 続き
- 第8回 租税制度（1）：租税の基礎理論
- 第9回 租税制度（2）：所得に対する課税
- 第10回 続き
- 第11回 租税制度（3）：法人に対する課税
- 第12回 続き
- 第13回 租税制度（4）：消費に対する課税
- 第14回 続き
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。
- ・ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済み、もしくは履修中であることが望ましいです。

【評価方法】

出席と期末試験の結果をもとに評価します。

【テキスト】

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年

【参考文献】

- 井堀利宏『財政（第3版）』岩波書店、2008年
- 小塩隆土『コア・テキスト財政学』新世社、2002年
- 上村敏之『はじめて学ぶ国と地方の財政学』日本評論社、2005年

社会思想史

担当教員 梅井 道生

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間の基本的な生活単位は、家庭生活であるが、外的な活動は社会的活動として行われる。しかもこの活動は、一定のルールに基づいているのである。しかし、このルールも首尾一貫したものではなく、時代背景が変われば変わっていくものなのである。時代背景の背後にあるもの、それが社会思想に他ならない。

したがって、歴史を真に理解するためには、歴史的事実だけを知るのではなく、時代の思想も併せて理解する必要がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1 社会思想とは何か。開講に当たっての諸注意
2	2 ルネッサンス的人間の社会思想
3	3 マキャヴェリの国家観
4	4 トーマス・モアと『ユートピア』
5	5 職業人の社会思想
6	6 ルネサンスと宗教改革
7	7 マルチン・ルターの宗教改革
8	8 ジョアン・カルビンの宗教改革
9	9 啓蒙的人間の社会思想
10	10 イギリス、スコットランド啓蒙
11	11 フランス啓蒙思想
12	12 現実的人間の社会思想 ーアダム・スミスと『国富論』
13	13 社会的人間の社会思想 ロバート・オーエン、サン・シモン
14	14 マルクス主義の成立
15	15 マルクス以降の社会思想
16	16 期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期試験およびレポート等で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

必要があれば、講義の時に指示する。

社会保障論

担当教員 庵原 さおり

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、現実の社会保障制度の概要を説明します。具体的には、社会保障制度全体に関する議論から始め、その後は個別の制度について順に説明していきます。そして最終的には、受講者が講義で学んだ知識をもとに、社会保障制度に関する論点について自分なりに説明できるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション：社会保障とは何か
- 第2回 日本の社会保障制度の概要
- 第3回 少子高齢化時代の財政と社会保障
- 第4回 公的医療保険
- 第5回 続き
- 第6回 各国の医療保険制度
- 第7回 続き
- 第8回 続き
- 第9回 公的年金制度
- 第10回 続き
- 第11回 公的年金制度 Q and A
- 第12回 介護保険制度
- 第13回 雇用保険
- 第14回 労災保険・社会福祉制度
- 第15回 生活保護・ホームレス対策
- 第16回 まとめ

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

レポートを6回書いてもらいます。
そのレポートと出席状況をもとに評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

- ・社会保障入門編集委員会『社会保障入門2013』中央法規、2013年
- ・椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第7版補訂版）』有斐閣、2010年

集落地理論 I

担当教員 濱里 正史

対象学年 2年

単位区分

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

20世紀は都市化の世紀と言われるほど都市化が進行しており21世紀もこの傾向は続くと予測されている。したがって、都市について学ぶことは現代および未来の社会を学ぶことに通ずる。特に最近では環境問題が人類の現在と未来における最重要課題として浮上するなか、これに対処する実践の場としての集落・都市の在り方が問われている。本講義では、集落地理論のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について地理学的視点を重視しながら特に「沖縄の都市と集落」及び「環境と都市」について学ぶことを目的とする。

【授業の展開計画】

講義のテーマは大きく2つに分かれる。1つは「沖縄の都市と集落」である。具体的には、「沖縄コナベーション」、「沖縄における基地と都市形成」、「沖縄の都市開発と環境問題」などについて学んでいく。もう1つのテーマは「環境と都市」である。具体的には、「エネルギーと都市」、「自動車と都市」についてヨーロッパの事例を参考にしながら講義した後、環境先進国ドイツの「環境都市フライブルク」を事例に、環境対策の実践の場としての都市とそのまちづくりがどのようなものであるかを学んでいく。

- 1 インTRODakション
- 2 沖縄コナベーション 1
- 3 沖縄コナベーション 2
- 4 沖縄における基地と都市形成 1
- 5 沖縄における基地と都市形成 2
- 6 沖縄における基地と都市形成 3
- 7 沖縄の都市開発と環境問題 1
- 8 沖縄の都市開発と環境問題 2
- 9 エネルギーと都市 1
- 10 エネルギーと都市 2
- 11 自動車と都市 1
- 12 自動車と都市 2
- 13 環境都市フライブルク 1
- 14 環境都市フライブルク 2
- 15 期末試験

【履修上の注意事項】

出席は取らないが、講義に出席しない限り試験は書けないことに注意すること

【評価方法】

試験およびレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業は毎回配る配付資料を基に行う。

【参考文献】

テキストは特にないが参考文献については随時指示する。

集落地理論Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 2年

単位区分

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

集落地理論Ⅱでは、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに村落景観に関する講義では、絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた分析方法、さらに、フィールドワークの方法に重点をおく。また村落の社会構造に関する講義については、これまでの沖縄村落研究の事例を、映像資料を用いながら紹介し、地域史・民俗学の研究成果を盛り込みながら講義を進めていく。

【授業の展開計画】

- 1 村落地理学の研究史
- 2 村落と地図①－地形図の基礎－
- 3 村落と地図②－地形図の利用方法－
- 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－
- 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－
- 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－
- 7 村落の景観①－地理学の景観概念と景観研究－
- 8 村落の景観②－沖縄村落の景観構造－
- 9 村落の景観③－景観研究の事例－
- 10 村落の景観④－景観調査の方法と実践－
- 11 村落の景観⑤－景観の政治性－
- 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－
- 13 村落の社会構造②－村落社会の過去と現実－
- 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法と実践－
- 15 沖縄村落における景観と社会組織の関係性－巡検－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席点を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

証券市場論 I

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、証券市場は資金の調達や運用の場として、その重要性がますます高まっています。講義では、証券市場全般の知識と証券投資の基礎理論を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 投資に関する理論 (1)
- 3 投資に関する理論 (2)
- 4 投資に関する理論 (3)
- 5 証券投資に関する理論 (1)
- 6 証券投資に関する理論 (2)
- 7 証券投資に関する理論 (3)
- 8 中間テスト
- 9 企業価値評価 (1)
- 10 企業価値評価 (2)
- 11 企業の最適資本構成と配当政策 (1)
- 12 企業の最適資本構成と配当政策 (2)
- 13 資本市場に関する理論 (1)
- 14 資本市場に関する理論 (2)
- 15 資本市場に関する理論 (3)
- 16 期末テスト

【履修上の注意事項】

証券市場論Ⅱとセットで受講することが望ましい。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年

【参考文献】

証券市場論Ⅱ

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、証券市場は資金の調達や運用の場として、その重要性がますます高まっています。前半の講義では、EXCELを活用して理論を実践する。また株価情報の分析を実習形式で行う。後半の講義では、デリバティブの理論を学ぶ。また証券外務員二種の株式・債券に関する範囲を学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 PC演習・証券の実践
- 3 PC演習・証券投資の実践（1）
- 4 PC演習・証券投資の実践（2）
- 5 PC演習・企業価値、最適資本の実践
- 6 PC演習・資本市場の実践
- 7 PC演習・情報収集
- 8 PC演習・株価情報の分析
- 9 中間テスト
- 10 デリバティブ理論（1）
- 11 デリバティブ理論（2）
- 12 証券外務員（株式）
- 13 証券外務員（株式）
- 14 証券外務員（債券）
- 15 証券外務員（債券）
- 16 期末テスト

【履修上の注意事項】

証券市場論Ⅰとセットで受講することが望ましい。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

U-CAN『証券外務員二種一問一答集 2013年版』自由国民社 2013年
石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年

【参考文献】

情報システム I

担当教員 真栄田 好史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報システムは、コンピュータシステム（デジタル）だけではなく、人間が会社や組織などで行う活動（アナログ）も、情報活動を支えるシステムといえる。本講義は、システムを構築する際、システムに必要とされる、人、モノ、カネ、情報の流れを、整理、分類する方法の習得、何のためにシステム化が必要なのか、どの様に構築するのか考えさせ（検討、分析）、「基本理念（根）、基本コンセプト：概念」を設定する重要性も理解させ、基本計画または企画書などを作成する知識・技能習得に主眼をおいている。演習も行いたい。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション(講義計画, 評価方法等の説明)
2. 情報とシステム
3. 情報とは：情報の分類
4. システムへの応用：システムの範囲
5. システムへの応用：目標と目的
6. システムへの応用：業務分析とシステム分析
7. システムへの応用：企画の立案、目標の設定と問題点の分析
8. システムへの応用：復習
9. システムへの応用：復習 2
10. 練習問題
11. システム設計：演習 1
12. システム設計：演習 2
13. システム設計：演習 3
14. システム設計：演習 4
15. システム設計：演習 5
16. 期末テスト又はまとめ

【履修上の注意事項】

講義の最中に、YouTubeをはじめとしインターネットへのアクセスが多々見受けられます。

指示なく、インターネットへのアクセスは、禁止します。

また、講義に関係ない、YouTubeなどの動画閲覧などに関しては、一切アクセスを禁止します。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、受講姿勢、および試験（若しくは提出されたレポート）によっての内容を総合して判断する。なお、再試験、追試験は行わない。

【テキスト】

適宜資料を配付する。

【参考文献】

「システム分析入門」南条優 オーム社

「フローチャートの書き方」 ※その他、必要に応じて講義の中で紹介する。

情報システムⅡ

担当教員 真栄田 好史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

プログラム（完成されたもの）とプログラミング（過程）の違いを理解させる。その上で、プログラミングに必要とされるフローチャートの作成とプログラムの解き方（アルゴリズム）について習得させることを目標とする。また、コンピュータ化されたものだけがプログラムでないことも併せて理解させる（紙の上でのプログラムの場合あり）。そのことも理解してもらいながら講義を行う。演習も行いたい。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（講義計画、評価方法等の説明）
2. コンピュータの歴史：復習
3. プログラミングの初歩的な概念：開始～終了まで。
4. アルゴリズムの基礎
5. 流れ図の作成1：フローチャートの見方
6. 流れ図の作成2：フローチャートの書き方
7. 練習問題
8. アルゴリズムについて：基本形1
9. アルゴリズムについて：基本形2
10. アルゴリズムについて：分岐（条件）
11. アルゴリズムについて：繰り返し（ループ処理）
12. アナログとデジタルの違い
13. アナログで書かれたプログラム1
14. アナログで書かれたプログラム2
15. アナログで書かれたプログラム3
16. 期末テスト又はまとめ

【履修上の注意事項】

情報システムⅠを履修済みである者を優先させる。

講義の最中に、YouTubeをはじめとしインターネットへのアクセスが多々見受けられます。

指示なく、インターネットへのアクセスは、禁止します。

また、講義に関係ない、YouTubeなどの動画閲覧に関しては、一切アクセスを禁止します。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、受講姿勢、および試験（若しくは提出されたレポート）によっての内容を総合して判断する。なお、再試験、追試験は行わない。

【テキスト】

適宜資料を配付する。

【参考文献】

「アルゴリズムとデータ構造」アイ・ティ・フロンティア

「フローチャートの書き方」 ※その他、必要に応じて講義の中で紹介する。

情報処理概論

担当教員 松崎 大介

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、情報処理技術と計算機の基礎的な演算方法について講義し、これらの基礎を築くことを目的とする。具体的には、まず情報処理の概念と計算機の構造、およびその動作原理について学んでもらいたい。さらに、ファイルシステムおよびデータベースシステムの動作を理解し、これらのシステム運用に関し講義を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（登録と講義計画）
2	情報の概念
3	情報処理と計算機
4	半導体と演算
5	計算機の原理
6	中央演算装置とメモリー
7	オペレーティングシステム
8	ファイルシステム
9	通信技術とネットワーク
10	データベース I
11	データベース II
12	情報化とシステム開発
13	システムの運用管理 I
14	システムの運用管理 II
15	まとめ
16	期末考査

【履修上の注意事項】

【評価方法】

主に期末試験に基づいて評価する。出席・レポートは補助的な評価対象とする。

【テキスト】

第一回目の講義で指示する。

【参考文献】

相田洋, 1995, 電子立国日本の自叙伝 (NHKライブラリー)
浅井宗海, 1999, 新コンピューター概論 (実教出版)

情報と社会

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間は情報に対してどのように関わり、歩んできたのだろうか。現代社会の中で、情報の役割と情報技術がもたらす影響、インパクト、それに伴う人間社会の変容、さらに光と影を多面的に検討することを目的とする。

【授業の展開計画】

到達目標は以下のとおり。

1. ICTが及ぼす消費生活、経済、産業、政治、文化、教育などへの影響について説明することができる。
2. 今後ますます進歩し続ける情報技術とその社会に対して自分の意見を持つことができる。

- 1回目：情報に関し、収集、分析、判断、評価の定義
- 2回目：情報とメディアリテラシーの関係を見出す
- 3回目：人・社会・技術（人間と情報とのかかわりを探り、ICT社会の未来を見つめる）
- 4回目：ユビキタス情報社会（身のまわりにある情報化（IT化）を認識し、どのような役割を担っている）
- 5回目：情報化と消費者心理（行動心理学的な観点から情報化社会が生み出した行動変容を探る）
- 6回目：情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）
- 7回目：情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）
- 8回目：情報の保管・運営（日本における、コンテンツの利用法とアーカイブの役割を理解する）
- 9回目：情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）
- 10回目：情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）
- 11回目：通信と放送の融合（コンテンツ作成手法と放送との融合メリットを探る）
- 12回目：情報社会の未来（理想的なICT利用と新しいコミュニケーションの形を考える）
- 13回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。
- 14回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。
- 15回目：振り返り
- 16回目：最終試験

【履修上の注意事項】

ディスカッション形式や発表の場面が多いため、積極的に授業参加を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢（20%）、最終試験（80%）を総合的に判断、評価する。

【テキスト】

特にテキストの指定はしない、適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

インストラクショナルデザインの原理（鈴木克明監訳：北大路書房）、情報技術と社会（大岩元、辰巳文雄：放送大学教育振興会）、各種統計（総務省Webサイト参照）

情報文化論 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近年、情報文化という言葉が頻りに耳にするが、この言葉によって何を意図しようとするのかは、明確ではない。これは情報文化という概念がまだ定着しておらず、いろいろな意味合いで使用されているからである。それが現代社会の特徴、現象、事象を表現する言葉として、きわめてインパクトが強いからであろう。そこで本授業では、情報文化の歴史を通して使用例、定義例を紹介し、それらと現在の情報環境を踏まえて情報文化の新たな定義を提案する。講義を通じた到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 情報文化に関し自分の言葉で定義することができる
2. 情報リテラシー能力（収集、分析、発信、著作など）を身につけることができる
3. 社会において情報文化がもたらす光と影を説明することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（情報、メディアに関するテスト）
- 2週目 情報文化に関する世界各国の定義
- 3週目 情報とメディアリテラシー
- 4週目 情報を運ぶ媒体の歴史
- 5週目 カルチャラル・スタディーズ
- 6週目 情報伝達の基本的理論と概念
- 7週目 メディアの時代（新聞・印刷技術の発展）
- 8週目 中間試験（習得度確認）
- 9週目 メディアの知（プロパガンダ）
- 10週目 電話・電信の歴史と利用法
- 11週目 マス・メディアとしてのラジオ
- 12週目 テレビの変遷（テレビの波及効果）
- 13週目 情報メディアがもたらす家族の変化
- 14週目 特別講義（メディア企業関連）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

履修上の注意事項 パーソナルコンピュータの基本操作ができるもの

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメや資料を配布する

【参考文献】

1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定

情報文化論Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報文化論Ⅱでは、情報文化論Ⅰで習得した知識をさらに深め、様々な定義に基づいて情報文化の諸側面(情報の重要性, 情報機器, 情報リテラシー, 情報管理体制, 制度, 文化的側面), 情報文化の事例, わが国、わが県における情報文化の特徴について学ぶ。また、県内企業との連携も図り現場での情報技術がどのように社会貢献しているか学ぶ。講義を通じた到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 情報文化が社会にもたらす影響を説明することができる
2. 情報技術を利用した現場を視察し、情報文化の動向を説明することができる

1週目 授業内容の確認と事前テスト(情報文化論Ⅰで学んだことも含む)

2週目 情報文化がもたらす社会への影響(経済)

3週目 情報文化がもたらす社会への影響(教育・家族)

4週目 複合的なメディアリテラシー

5週目 複合的なメディアリテラシー

6週目 事例を通して批判的理論と実践

7週目 事例を通して批判的理論と実践

8週目 中間試験(習得度確認)

9週目 県内視察(メディア関連施設)

10週目 情報文化における広告手法の変遷

11週目 アジアの情報文化事例

12週目 アジアの情報文化事例

13週目 特別講義(IT企業関連)

14週目 情報文化における編集活動の変容

15週目 ふりかえり

16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

パーソナルコンピュータの基本操作ができるもの、情報文化論Ⅰを習得したものが望ましい

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメや資料を配布する。

【参考文献】

1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定、4. DVD、ビデオ教材

情報リテラシー演習

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	基本的な操作方法と日本語入力の練習
3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法
4	ワードの操作方法 (1)
5	ワードの操作方法 (2)
6	ワードの操作方法 (3)
7	ワードの操作方法 (4)
8	エクセルの操作方法 (1)
9	エクセルの操作方法 (2)
10	エクセルの操作方法 (3)
11	エクセルの操作方法 (4)
12	エクセルの操作方法 (5)
13	パワーポイントの操作方法 (1)
14	パワーポイントの操作方法 (2)
15	パワーポイントの操作方法 (3)
16	修得した全ての知識、技術で最終課題作成

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と課題の提出状況・内容をもとに評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

特になし。

情報リテラシー演習

担当教員 庵原 さおり

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な操作方法と日本語入力の練習
- 第3回 インターネットの活用方法と電子メールの利用方法
- 第4回 ワードの操作方法 (1)
- 第5回 ワードの操作方法 (2)
- 第6回 ワードの操作方法 (3)
- 第7回 ワードの操作方法 (4)
- 第8回 エクセルの操作方法 (1)
- 第9回 エクセルの操作方法 (2)
- 第10回 エクセルの操作方法 (3)
- 第11回 エクセルの操作方法 (4)
- 第12回 エクセルの操作方法 (5)
- 第13回 パワーポイントの操作方法 (1)
- 第14回 パワーポイントの操作方法 (2)
- 第15回 パワーポイントの操作方法 (3)
- 第16回 まとめ

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と課題の提出状況・内容をもとに評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

特に指定しません。

情報リテラシー演習

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	基本的な操作方法と日本語入力の練習
3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法
4	ワードの操作方法 (1)
5	ワードの操作方法 (2)
6	ワードの操作方法 (3)
7	ワードの操作方法 (4)
8	エクセルの操作方法 (1)
9	エクセルの操作方法 (2)
10	エクセルの操作方法 (3)
11	エクセルの操作方法 (4)
12	エクセルの操作方法 (5)
13	パワーポイントの操作方法 (1)
14	パワーポイントの操作方法 (2)
15	パワーポイントの操作方法 (3)
16	

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と課題の提出状況・内容をもとに評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

なし

西洋経済史 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済史とは、文字通り経済の歴史を研究する学問である。しかし、その範囲はあまりにも広いため、ここでは時代区分をある程度限定しなくてはならない。すなわち、この講義ではヨーロッパにおける経済の発達—具体的には農業社会→商業社会→工業化社会への変化—を見ていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価の方法などの説明
2	中世ヨーロッパ社会の特徴
3	農業—三圃式農業から輪裁式農業へ—
4	都市国家の成立
5	商業の発達
6	国内市場から海外市場へ
7	植民地経営の進展
8	重商主義政策の進展
9	重金主義政策
10	差額貿易主義政策
11	産業保護政策
12	絶対主義体制の崩壊
13	イギリスとフランス
14	イギリスにおける農業革命
15	イギリスにおける産業革命前夜
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実の積み重ねという性格の学問であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で評価する。

【テキスト】

イギリスで手に入れた経済史のテキストをプリントして配布する。したがって、ある程度の英語力が必要である。

【参考文献】

開講時に指示する。

西洋経済史Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

西洋経済史Ⅰでは、中世絶対王政の崩壊のところまで学んできた。この過程は、まさに近代社会を生み出すために必要なものであった。すなわち、王政の崩壊は、その内部に近代化の萌芽を含んでいたのである。したがって、ここでは近代化が全面開花したヨーロッパ社会の実情を見ていきたい。その際中心になるのは、どうしてもイギリスの産業革命であろう。ここでは、この「革命」に焦点を当て、なぜイギリスでそれが可能だったのかを考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の内容、評価方法などの説明
2	ビデオ上映—Sheffieldの工場跡、Belper峡谷の工場群、アークライト工場—など
3	イギリスでなぜ産業革命が起きたのか？
4	二つの革命
5	価格革命
6	農業革命
7	羊毛工業の発達—オランダとの関係—
8	綿工業の発達
9	機械化と発明の進展
10	関連産業の発達
11	鉄鋼業
12	石炭産業
13	消費の拡大と国内市場の形成
14	大英帝国の没落とその原因
15	アメリカおよびドイツの産業革命
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実の積み重ねという性格の学問であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で評価する。

【テキスト】

イギリスで手に入れた経済史のテキストをプリントして配布する。したがって、ある程度の英語力が必要である。

【参考文献】

開講時に指示する。

専門演習 I A

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

いま、アジアが面白い。私がイギリスに滞在した時に、一番元気だったのがアジアからの留学生だった。また、実際にアジア諸国に行った際、元気をもらって来たのは、この地域である。したがって、この演習では、主としてアジアの経済について研究していきたいと考えている。

【授業の展開計画】

基本的に、グループ毎にテーマを与え、報告討論の形式をとる。

【履修上の注意事項】

アジアの経済問題に関心ある者、および私の科目履修生が望ましい。

【評価方法】

出席およびレポートで評価する。

【テキスト】

特になし。時宜に応じて指示する。

【参考文献】

特になし。

専門演習 I A

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（自己紹介等）
2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当
3	報告・ディスカッション（1）
4	報告・ディスカッション（2）
5	報告・ディスカッション（3）
6	報告・ディスカッション（4）
7	報告・ディスカッション（5）
8	工場見学または課外授業
9	報告・ディスカッション（6）
10	報告・ディスカッション（7）
11	報告・ディスカッション（8）
12	報告・ディスカッション（9）
13	報告・ディスカッション（10）
14	経営学関係のビデオ/DVD学習
15	専門演習 I Aの反省会・総括
16	予備日

【履修上の注意事項】

学生の積極性を重視する。本演習での積極性とは、「〇〇がいやだ」、「△△が気に入らない」という姿勢から、「□□がやってみたい」、「◎◎のようになりたい」への転換である。教室で報告する力、ゼミ生とディスカッションする力、また集団で議論をまとめる力などを培ってほしい。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）などを総合的に評価する。

【テキスト】

演習開始時に指示する。

【参考文献】

参考になる文献は適宜紹介する。

専門演習 I A

担当教員 松崎 大介

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、我々の直面する様々な社会現象を、自らの力で分析し、自らの言葉で他者に説明する能力を身につけることを目標とする。そのための思考の足がかりとして、基礎的な経済学の分析方法を本演習で学んでほしい（難しい数学は特に必要はない）。たとえば、社会が直面する問題（貧困や格差、若者の失業率が高いなど）に対し、ある政策が人々の満足の観点から良いものなのかどうか、もし悪いとしたらどのような点を修正する必要があるのか、という点に対し経済学の視点から解決策を考えていきたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

ミクロ経済学・マクロ経済学を履修しておく事が望ましい。

【評価方法】

課題発表および出席状況の評価。

【テキスト】

詳細は第一回目の演習の際に指示する。

【参考文献】

井堀利宏，2004，公共経済学（新世社）；伊藤元重，2005，国際経済学入門（日本経済新聞社）
J. E. スティグリッツ，2003，公共経済学（東洋経済新報社）；斎藤誠，“新しいマクロ経済学”，2006，有斐閣；
小野善康，“金融”第2版，2009，岩波書店；

専門演習 I A

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融市場・経済問題について調査・報告する。

【授業の展開計画】

沖縄県の金融市場・経済問題について調査・報告する。

(例) ・沖縄県民の家計

・沖縄県における観光産業

本演習における調査は、卒業論文のステップとなる。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況、演習参加姿勢、レポートに基づき評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

専門演習 I A

担当教員 庵原 さおり

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、様々な経済ニュースや社会問題についての知識を身につけることを目指します。たくさんの中の中から各自の好きな内容を選んでもらい、順番に報告してもらいます。いろいろな問題について考えることで、受講者が幅広い知識を身につけられるよう工夫したいと思います。また、報告者以外の人にも質問や意見を言ってもらいます。そして、受講者がいろいろな人と議論できるようになることも目指します。

【授業の展開計画】

テキストを輪読していきます。
第1回 オリエンテーション
第2回～第15回 報告・議論

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と報告の内容をもとに、総合的に評価します。

【テキスト】

初回の講義で連絡します。

【参考文献】

特になし

専門演習 I A

担当教員 宮城 和宏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄を題材として取り上げる。沖縄県の現状について特に経済面から学習することにより、自立経済に向けての課題について理解を深めていくことを目標とする。その後、個々のテーマについて更に学習する。方法としては、テキストの報告や討論に加え課外授業などを実施。学習を通じて問題意識を皆で共有していくことが求められる。

【授業の展開計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	報告レジメ作成、議論の方法の説明
第3回～5回	報告・ディスカッション
第6回	課外授業（企業訪問、公的機関訪問等）
第7回～9回	報告・ディスカッション
第10回	課外授業または社会人特別講師の授業
第11回～15回	報告・ディスカッション
第16回	前期の総括

【履修上の注意事項】

何事にも積極的かつ自主的に参加する気概が求められる。

【評価方法】

出席、報告内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

初回時に指示する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

専門演習 I A

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅱにおける卒業論文作成に向けた経済学の専門知識を深めていくことと、雇用失業や財政、産業など沖縄県及び全国の社会経済への認識を、論文や専門書の輪読等によって深めていく。日本や沖縄の社会・経済の現状を冷静に分析し、どうすれば地域が発展し、住民が幸福になるのか、グループ討議も含め議論を重ねながら、一緒に考えていく。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション（講義予定など）
第2～3週 論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）
第4～6週 経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える）
第7～9週 専門書、論文等の輪読
第10～15週 調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）
第16週 前期総括及び夏休みの課題テーマの発表など

【履修上の注意事項】

所得格差、労働問題や財政問題、中心市街地の活性化など幅広い分野に関心があり、調査研究意欲があること。積極的に発表したり、ディスカッションに加われること。また、ゼミの合宿や懇親会等にも積極的に参加すること。

【評価方法】

発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。
講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。

【テキスト】

特にないが、そのつど紹介する

【参考文献】

「問題解決力」稲崎宏治 ダイアモンド社、「寓話で学ぶ経済学」ラッセル・ロバーツ 日本経済新聞社、
「経済学で現代経済を読む」ダグラス・ノース他 日本経済新聞社 など

専門演習 I A

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の専門演習 I Aは原則として専門演習 I Bや4年次の専門演習 II A, II Bへと持ち上がりになります。演習（ゼミナール）というのは、討論や共同作業を通して学生同士が学びあい、各自の認識を深めるというのが目的ですから、できるだけ率直に積極的に話をするのが大事です。いろんな意見やセンスの持ち主が集まって議論が活発になったらいいなと思いますので、留学生は歓迎です。とにかく、仲良く楽しくやっていきたいですね。

【授業の展開計画】

最初は共通の話題をつくるため何か面白そうなテキストの輪読から始めようと思います。私としては、日本経済の危機と救済策、グローバリゼーションの功罪、ドル覇権の動揺と日本、世界秩序の行方といった刺激的なテーマにしたいなと思っています。

皆さんが率直に対話できるだけの共通の認識・知識の基盤ができれば、その上に立って自分でより深く調べ、皆に自分の考えを話し、他の人の意見を聞いてさらに自分の思考を高めていくと同時にメンバーの共通認識を広げていくこと（これを「ソクラテスの対話法」と言います）を目指します。このようにして個人個人の関心を深めていき、4年次では意欲的に卒業論文に取り組むことを期待します。

【履修上の注意事項】

何かを履修要件にすることはありませんが、誰かと対話をしたいと思う人、世の中の動きに関心を持っている人が向いていると思います。ユニークな発想をする人を歓迎します。登録上限20人。

【評価方法】

レポート50%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来等）50%

【テキスト】

未定

【参考文献】

未定

専門演習 I B

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期は、アジア地域の基本的な特性について研究してきた。後期は、さらに経済問題について、より深く探求を進めていく。

【授業の展開計画】

毎回、報告討論の形式で進めていく。

【履修上の注意事項】

新聞、とくにアジアに関する記事に関心を持って読むように。

【評価方法】

出席および受講態度で評価する。

【テキスト】

特に無い。

【参考文献】

必要に応じ指示する。

専門演習 I B

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	報告割当、連絡事項ほか
2	報告・ディスカッション (1)
3	報告・ディスカッション (2)
4	報告・ディスカッション (3)
5	報告・ディスカッション (4)
6	報告・ディスカッション (5)
7	報告・ディスカッション (6)
8	課外授業または社会人特別講師の授業
9	報告・ディスカッション (7)
10	報告・ディスカッション (8)
11	報告・ディスカッション (9)
12	報告・ディスカッション (10)
13	報告・ディスカッション (11)
14	報告・ディスカッション (12)
15	専門演習 I B の反省会・総括
16	予備日

【履修上の注意事項】

専門演習 I A からの継続履修を前提とする。学生の積極性を重視する。本演習での積極性とは、「〇〇がいやだ」、「△△が気に入らない」という姿勢から、「□□がやってみたい」、「◎◎のようになりたい」への転換である。教室で報告する力、ゼミ生とディスカッションする力（特に本演習では、グループディスカッション）などを培ってほしい。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）などを総合的に評価する。

【テキスト】

演習開始時に指示する。

【参考文献】

参考になる文献は適宜紹介する。

専門演習 I B

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融市場・経済問題について調査・報告する。

【授業の展開計画】

沖縄県の金融市場・経済問題について調査・報告する。

(例) ・沖縄県民の家計

・沖縄県における観光産業

本演習における調査は、卒業論文のステップとなる。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況、演習参加姿勢、レポートに基づき評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

専門演習 I B

担当教員 庵原 さおり

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習本 I Aと同様、様々な経済ニュースや社会問題についての知識を身につけることを目指します。また、受講者がいろいろな人と議論できるようになることも目指します。

【授業の展開計画】

専門演習 I Aと同様、テキストを輪読していきます。

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と報告の内容をもとに、総合的に評価します。

【テキスト】

初回の講義で連絡します。

【参考文献】

特になし

専門演習 I B

担当教員 宮城 和宏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習 I Aでの学習を通じて得た問題意識を基礎に、個々の関心テーマについて更なる知見を得ることを目標とする。いくつかのグループに分かれ、個々のテーマについて調査・報告してもらうことになる。

【授業の展開計画】

第1回 オリエンテーション
第2回～6回 報告・ディスカッション
第7回 課外授業（企業・公的機関訪問等）または社会人特別講師授業
第8回～15回 報告・ディスカッション
第16回 後期の総括

【履修上の注意事項】

何事にも積極的かつ自主的に参加する気概が求められる。

【評価方法】

出席、報告内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

その都度紹介する。

専門演習 I B

担当教員 松崎 大介

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、我々の直面する様々な社会現象を、自らの力で分析し、自らの言葉で他者に説明する能力を身につけることを目標とする。そのための思考の足がかりとして、基礎的な経済学の分析方法を本演習で学んでほしい（難しい数学は特に必要はない）。たとえば、社会が直面する問題（貧困や格差、若者の失業率が高いなど）に対し、ある政策が人々の満足の観点から良いものなのかどうか、もし悪いとしたらどのような点を修正する必要があるのか、という点に対し経済学の視点から解決策を考えていきたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

ミクロ経済学・マクロ経済学を履修しておく事が望ましい。

【評価方法】

課題発表および出席状況の評価。

【テキスト】

詳細は第一回目の演習の際に指示する。

【参考文献】

井堀利宏，2004，公共経済学（新世社）；伊藤元重，2005，国際経済学入門（日本経済新聞社）
J. E. スティグリッツ，2003，公共経済学（東洋経済新報社）；斎藤誠，“新しいマクロ経済学”，2006，有斐閣；
小野善康，“金融”第2版，2009，岩波書店；

専門演習 I B

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習 I Aでの学習を踏まえて、後期ではグループ別に興味のあるテーマについて調査を行い、その結果を発表・討議する。また、グループ活動を通して各自の卒論のテーマについても考えていく。

【授業の展開計画】

第1週	オリエンテーション（講義予定など）
第2～3週	夏休み課題の発表とディスカッション
第4週	外部講師による講義
第5～7週	グループによる調査研究 I（テーマ選択、研究の企画づくり）
第8～12週	グループによる調査研究 II（企業訪問、アンケートなど）
第13～15週	調査結果の発表と討議
第16週	後期の反省および総括

【履修上の注意事項】

所得格差、労働問題や財政問題、中心市街地の活性化、企業経営など、幅広い分野に関心があり、調査研究意欲があること。積極的に発表したり、ディスカッションに加われること。

【評価方法】

発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。
講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜紹介する

専門演習 I B

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の専演習 I B は原則として4年次の演習 II A, II B へと持ち上がりになります。演習（ゼミナール）というのは、討論や共同作業を通して学生同士が学びあい、各自の認識を深めるというのが目的ですから、できるだけ率直に積極的に話をすることが大事です。いろいろな意見やセンスの持ち主が集まって議論が活発になったらいいなと思います。

【授業の展開計画】

専門演習 I A で何らかのテキストを輪読した後は、別のテキストを輪読するか、個人またはグループでテーマを決めて調査や研究をするかは相談して決めます。輪読の場合は各自が順番にテキストの分担部分の要約や感想を、調査・研究の場合はその中間的な成果を発表することになります。

【履修上の注意事項】

何かを履修要件にすることはありませんが、誰かと対話をしたいと思う人、世の中の動きに関心を持っている人が向いていると思います。ユニークな発想をする人を歓迎します。
登録上限20人。

【評価方法】

レポート50%、演習への参加姿勢(出席、発言、発表の出来不出来等)50%

【テキスト】

未定

【参考文献】

未定

専門演習ⅡA

担当教員 梅井 道生

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰでは、東南アジア地域における経済問題の概略を学習してきた。本年度は、それをさらに発展させ、テーマを絞り込んでいきたい。そして、最終的には、卒業論文にまとめていく。

【授業の展開計画】

前期:ゼミ生が自主的にアジア地域の情報収集を行い、研究を進める。

後期:卒業論文のテーマを決め、研究発表を行う。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、積極的な討論を求められる。

【評価方法】

提出された卒業論文で評価する・

【テキスト】

特に指定しない。変化の非常に激しい地域であるから、ネット情報が有効である。

【参考文献】

特になし。

専門演習ⅡA

担当教員 松崎 大介

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰと同様、文献の輪読と各自の発表を中心として進めていく。我々を取り巻くさまざまな社会事象を、経済学の観点から眺めると、多くの場合、各経済主体の誘引を通じて筋の通った理由を見つけることができる。これらの経済事象のもつれた誘引を丁寧に追いつつ、大学で学んだ経済学の知識を用いて卒業論文を書き、大学生生活の締めくくりとしてもらいたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

ミクロ経済学・マクロ経済学を履修しておく事が望ましい。

【評価方法】

課題発表および出席状況の評価。

【テキスト】

演習に用いる参考文献は適宜指示する。

【参考文献】

井堀利宏，2004，公共経済学（新世社）；伊藤元重，2005，国際経済学入門（日本経済新聞社）
J. E. スティグリッツ，2003，公共経済学（東洋経済新報社）；斎藤誠，“新しいマクロ経済学”，2006，有斐閣；
小野善康，“金融”第2版，2009，岩波書店；

専門演習ⅡA

担当教員 安藤 由美

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰで学習した「沖縄の金融・経済問題」をふまえ、各自卒業論文を作成・提出する。

【授業の展開計画】

前期：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う

後期：卒業論文を作成する。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況・卒業論文

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡA

担当教員 庵原 さおり

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、様々な経済ニュースや社会問題についての知識を身につけることを目指します。たくさんの中の中から各自の好きな内容を選んでもらい、順番に報告してもらいます。いろいろな問題について考えることで、受講者が幅広い知識を身につけられるよう工夫したいと思います。報告者以外の人にも質問や意見を言ってもらいます。そして、受講者がいろいろな人と議論できるようになることも目指します。また、卒業論文のテーマ選び、資料収集も同時に進めてもらいます。

【授業の展開計画】

テキストを輪読していきます。

第1回 オリエンテーション

第2回～第15回 報告・議論

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と報告の内容をもとに、総合的に評価します。

【テキスト】

初回の講義で連絡します。

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡA

担当教員 宮城 和宏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次に学習してきたことを基にいくつかのグループに分かれ、ゼミ論を作成する。

【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループ分けと報告割り当て
- 3回～16回 報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

産業組織論Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。積極的に議論に参加すること。

【評価方法】

課題発表の内容、参加姿勢、出席状況

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡA

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰでは、沖縄の産業及び労働雇用問題に対する共通認識を踏まえ、グループでそれぞれのテーマにもとづき、アンケートやインタビュー調査等の実態調査を行った。専門演習Ⅱでは、各自設定したテーマを深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を作成する。特にテーマの制限はしない。各自で興味・関心のあるテーマを選ぶ。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション
第2週 論文テーマの報告
第3週～5週 調査方法等に関する討論
第6週～16週 各自の調査分析をもとにした報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

討論での発言や他の学生の意見を聞く姿勢など演習中の態度も重視する。

【評価方法】

論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。

【テキスト】

論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。
必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する。

【参考文献】

専門演習ⅡA

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の演習Ⅰに引き続いて、各自の興味を持ったテーマに沿って研究成果を発表してもらいます。グループでの研究・発表でもかまいません。演習での活発な討論を通して、完成度が高くなったら、卒業論文にしましょう。

【授業の展開計画】

上記の通り。

【履修上の注意事項】

20名を持って、履修の上限とする。

【評価方法】

レポート40%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来、積極性）60%

【テキスト】

なし。

【参考文献】

演習中、必要に応じて、あるいはメンバーの要望に応じて紹介します。

専門演習ⅡA

担当教員 村上 了太

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、就職や進学を控えた4年次生を対象に開講される。4年間の学業の総括を「卒業論文」に成就させていく。実際には専門演習ⅡBにて提出するが、前期開講科目である本演習は、卒業論文の中間発表も行っていく。就職、進学など学生諸君の目的に応じた指導も行いたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（前期）
2	卒業研究の意義と報告割当
3	報告・ディスカッション（1）
4	報告・ディスカッション（2）
5	報告・ディスカッション（3）
6	報告・ディスカッション（4）
7	報告・ディスカッション（5）
8	工場見学または社会人特別講師による授業
9	報告・ディスカッション（6）
10	報告・ディスカッション（7）
11	報告・ディスカッション（8）
12	報告・ディスカッション（9）
13	報告・ディスカッション（10）
14	報告・ディスカッション（11）
15	前期のまとめ
16	予備日

【履修上の注意事項】

- (1) この演習は「卒業研究ゼミ」と位置づける。「大学生活で何を学んだのか」を総括するゼミである。
- (2) 専門演習ⅡAは、同ⅡBに提出する卒業論文の中間報告を行う。詳細は演習時間内に適宜説明する。

【評価方法】

出席状況（30%）、卒業論文の中間報告（50%）、提出物（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習ⅡB

担当教員 梅井 道生

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰでは、東南アジア地域における経済問題の概略を学習してきた。本年度は、それをさらに発展させ、テーマを絞り込んでいきたい。そして、最終的には、卒業論文にまとめていく。

【授業の展開計画】

前期:ゼミ生が自主的にアジア地域の情報収集を行い、研究を進める。

後期:卒業論文のテーマを決め、研究発表を行う。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、積極的な討論を求められる。

【評価方法】

提出された卒業論文で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。変化の非常に激しい地域であるから、ネット情報が有効である。

【参考文献】

特になし。

専門演習ⅡB

担当教員 松崎 大介

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰと同様、文献の輪読と各自の発表を中心として進めていく。我々を取り巻くさまざまな社会事象を、経済学の観点から眺めると、多くの場合、各経済主体の誘引を通じて筋の通った理由を見つけることができる。これらの経済事象のもつれた誘引を丁寧に追いつつ、大学で学んだ経済学の知識を用いて卒業論文を書き、大学生活の締めくくりとしてもらいたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

ミクロ経済学・マクロ経済学を履修しておく事が望ましい。

【評価方法】

課題発表および出席状況の評価。

【テキスト】

演習に用いる参考文献は適宜指示する。

【参考文献】

井堀利宏，2004，公共経済学（新世社）；伊藤元重，2005，国際経済学入門（日本経済新聞社）
J. E. スティグリッツ，2003，公共経済学（東洋経済新報社）；斎藤誠，“新しいマクロ経済学”，2006，有斐閣；
小野善康，“金融”第2版，2009，岩波書店；

専門演習ⅡB

担当教員 安藤 由美

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰで学習した「沖縄の金融・経済問題」をふまえ、各自卒業論文を作成・提出する。

【授業の展開計画】

前期：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う

後期：卒業論文を作成する。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況・卒業論文

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡB

担当教員 庵原 さおり

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文の作成を目指します。途中経過の発表を繰り返すことで、より内容の濃いものとなるよう指導したいと思います。

【授業の展開計画】

卒業論文の経過発表を順に行います。

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と報告の内容をもとに、総合的に評価します。

【テキスト】

初回の講義で連絡します。

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡB

担当教員 宮城 和宏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期に引き続き、各グループによる報告・ディスカッションを行い、最終的にゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

1回～16回 報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

産業組織論Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。積極的に議論に参加すること。

【評価方法】

課題発表の内容、参加姿勢、出席状況

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡB

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習ⅡAで行った基礎調査や報告を踏まえ、卒業論文を仕上げていく。大学4年間の集大成として卒業論文を仕上げることのできるよう、指導・助言を行っていきたい。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション
第2週～3週 中間報告
第4週～8週 報告とディスカッション
第9週～12週 卒論のプレゼンテーション
第15週～16週 卒論編集

【履修上の注意事項】

討論での発言や他の学生の意見を聞く姿勢など演習中の態度も重視する。

【評価方法】

卒業論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。

【テキスト】

論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。
必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する

【参考文献】

専門演習 II B

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の演習 I に引き続いて、各自の興味を持ったテーマに沿って研究成果を発表してもらいます。グループでの研究・発表でもかまいません。演習での活発な討論を通して、完成度が高くなったら、卒業論文にしましょう。

【授業の展開計画】

上記の通り。

【履修上の注意事項】

20名を持って、履修の上限とする。

【評価方法】

レポート40%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来、積極性）60%

【テキスト】

なし。

【参考文献】

演習中、必要に応じて、あるいはメンバーの要望に応じて紹介します。

専門演習ⅡB

担当教員 村上 了太

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文の作成は、大学生活の総決算の意味も持ち合わせている。専門演習ⅡAとともに、また大学で何を学んだかも併せ持って執筆に臨んでもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（後期）
2	卒業研究の中間発表の割り当て・解説など
3	報告・ディスカッション①
4	報告・ディスカッション②
5	報告・ディスカッション③
6	報告・ディスカッション④
7	報告・ディスカッション⑤
8	報告・ディスカッション⑥
9	報告・ディスカッション⑦
10	報告・ディスカッション⑧
11	報告・ディスカッション⑨
12	報告・ディスカッション⑩
13	卒業論文仮提出・修正①
14	卒業論文仮提出・修正②
15	卒業論文仕上げ・提出
16	予備日

【履修上の注意事項】

専門演習ⅡAを履修した者を履修条件とする。

【評価方法】

出欠状況（50％）、卒業論文（50％）で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

地域経済論

担当教員 小川 護

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域経済には二つの捉え方がある。アジア経済やヨーロッパ経済等の国際的・地域経済と都市経済や農村経済等の国内地域経済の二つである。本講義は後者の地域経済論である。地域経済の流れと活性化、発展について、生活・文化・技術・経済の側面から考えていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法の説明、その他
2	地域社会経済研究の視点
3	システムとしての地域経済
4	経済発展と社会経済の拡大
5	国民国家経済と地域社会経済
6	都市経済
7	農村経済
8	地方政府と地場企業と地域経済
9	地域社会経済活性化 1
10	地域社会経済活性化 2
11	地域社会経済活性化 3
12	地域分権と地域社会経済
13	情報化時代の地域社会経済
14	グローバル時代の地域社会経済
15	講義の総括
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回、プリントを配布するので、綴り用のファイルを用意すること。

【評価方法】

テスト成績を基礎に、レポート、出席状況、その他を加味し、総合的に評価する。受講生の努力を評価したい。

【テキスト】

帝国書院編集部「資料 地理の研究」(980円)、帝国書院「新詳 高等地図」。なお地図帳は中学校あるいは高等学校で使用したものでもかまわない。

【参考文献】

必要なときに随時指定する。

地方財政論 I

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

バブル経済の崩壊後、景気の低迷もあり国の財政事情が厳しくなる中、地方分権の名のもと国と地方の役割が真剣に議論されています。地方分権とは、財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指しつつ地方の自主性を重視するような考え方です。必然的に地方財政のあり方が大きく変わろうとしています。近年の市町村合併や公務員の削減もこの動きと密接に関係しています。これは、皆さんを含む地域住民にとっては、生活スタイルに影響を与える大きな変動です。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、国家財政と地方財政の関係とその変遷について学びます。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明
第2・3週 地方財政の実態
第4・5週 国と地方の機能分担
第6・7週 制度としての地方財政
第8・9週 地方公共支出の経済学
第10・11週 地方団体の行財政改革
第12・13週 広域行政と狭域行政
第14・15週 地方税の体系と原則
第16週 試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

レポート及び試験を総合的に評価する

【テキスト】

「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス

【参考文献】

「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」 有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」 日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房

地方財政論Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

バブル経済の崩壊後、景気の低迷もあり国の財政事情が厳しくなる中、地方分権の名のもと国と地方の役割が真剣に議論されています。地方分権とは、財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指しつつ地方の自主性を重視するような考え方です。必然的に地方財政のあり方が大きく変わろうとしています。近年の市町村合併や公務員の削減もこの動きと密接に関係しています。これは、皆さんを含む地域住民にとっては、生活スタイルに影響を与える大きな変動です。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学ぶとともに、理論を踏まえて、市町村の財政分析を実際に体験してもらいます。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明
第2週 地方財政改革の動き
第3週 地方税の改革
第4週 〃
第5週 国庫支出金と地方財政
第6週 〃
第7週 地方交付税と財政調整
第8週 〃
第9週 地方債の発行と国の関与
第10週 〃
第11週 地域づくりと地方団体の役割
第12週 〃
第13週 市町村財政分析の実習Ⅰ
第14週 市町村財政分析の実習Ⅱ
第15週 市町村財政分析の実習Ⅲ
第16週 テスト

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する

【テキスト】

「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス

【参考文献】

「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」 有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」 日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房

中小企業論

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、経営学を道具に中小企業を理解することである。いわゆる大企業との比較を試みながら、中小企業の強みや弱みなどを理解し、日本や沖縄の産業構造の理解を進めていきたい。また起業に関する理解も深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の狙い、出欠、提出物などの説明）
2	中小企業とは何か？
3	経営学の理解
4	事例研究①
5	事例研究②
6	事例研究③
7	事例研究④
8	中間試験
9	事例研究⑤
10	事例研究⑥
11	事例研究⑥
12	事例研究⑦
13	事例研究⑧
14	事例研究⑨
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義中の私語や携帯電話の通話は禁止する。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

黒崎誠『世界を制した中小企業』講談社（現代新書）、2003年。
帝国データバンク史料館・産業調査部編『百年続く企業の条件』朝日新聞出版（朝日新書）、2009年。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

日本経済史 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の経済状況や経済問題を考える場合でも、過去の歴史的経緯や背景を踏まえることが欠かせません。とりわけ、日本の政治、経済、社会の発展には世界的に見ても独特な面があると思います。日本経済論 I では、縄文時代と神道の伝統、日本の農業革命としての稲作と天皇制、仏教の変容と封建制の展開等を扱います。その際、人類史や沖縄との関連も触れたいと思います。

【授業の展開計画】

- テキストに沿って解説しつつ、関連する話題を適宜補足する。
- 第1週 講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明
 - 第2週 経済史・・・自然環境と人間社会との物質・エネルギー代謝、技術・知識の蓄積と伝播、組織・制度・思想の変遷
 - 第3週 西洋中心史観の修正・・・アジアは世界経済の中心だった、西欧と日本の平行進化、江戸時代の再評価
 - 第4週 ホモ・サピエンスの拡散と沖縄・日本
 - 第5週 縄文時代の意義
 - 第6週 弥生時代・・・農耕社会の形成
 - 第7週 古代国家と大和王権
 - 第8週 東アジア情勢と律令国家・・・「日本国」の成立
 - 第9週 律令体制の揺らぎ・・・王朝と荘園公領制
 - 第10週 中世前期の経済・・・在地勢力(武士)の台頭
 - 第11週 中世経済の構造変化・・・村落共同体成立、南北朝、戦国時代、大名領国制、沖縄史の胎動
 - 第12週 中世後期の経済：重商主義的領国経営、貫高制、商工業の発達、都市と海外交易、西洋との接触
 - 第13週 近世の幕開けと江戸時代経済の成立・・・農民だけの村、武士の官僚化、石高制
 - 第14週 江戸時代前期の経済動向・・・大開拓による高度成長時代、
 - 第15週 江戸時代経済の成熟・・・土地の制約と人口停滞、石高制の矛盾、幕府や各藩の財政危機と改革
 - 第16週 江戸時代経済の構造転換・・・労働集約的技術進歩、輸入代替、各藩の産業振興、大衆文化の成熟

【履修上の注意事項】

歴史に興味のある人歓迎。

【評価方法】

レポート60%、授業への参加姿勢(出席や質問等)40%

【テキスト】

太田愛之 他 『日本経済の2千年』勁草書房

【参考文献】

S・オッペンハイマー『人類の足跡10万年全史』草思社
谷川健一『甦る海上の道・日本と琉球』文春新書

日本経済史Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本経済史Ⅰと同様に日本の歴史の特質と現代に繋がる諸問題を採り上げる。特に、江戸時代の経済社会の独特の性格と明治以後のキャッチアップ型西洋化の光と影に焦点を当てたい。

【授業の展開計画】

テキストを解説しつつ、適宜補足する。

- 第1週 講義の紹介、講義計画・注意事項・評価方法を説明
- 第2週 江戸時代の特質と開国・開港・・・「鎖国」経済の終焉と通貨の混乱
- 第3週 明治維新と上からの近代化（西洋化？）
- 第4週 近代経済成長の起動
- 第5週 企業勃興と日清・日露戦争
- 第6週 「明治大正経済システム」、大正デモクラシーと社会主義
- 第7週 第一次大戦とブーム、その後の慢性不況・・・不良債権、二重構造経済、階級闘争の激化
- 第8週 井上財政と高橋財政
- 第9週 戦時統制経済・・・官僚統制、日満支ブロック、重化学工業化
- 第10週 占領「改革」と復興
- 第11週 高度成長
- 第12週 日本的経済システム（「高度成長期システム」）の形成とその特徴
- 第13週 日本経済の模索・・・石油ショックの克服と貿易摩擦
- 第14週 アメリカの対日政策と苦悩する日本経済
- 第15週 日本の光と影

【履修上の注意事項】

歴史や社会問題に関心のある人を歓迎します。

【評価方法】

レポート60%、授業への参加意識（出席や質問等）40%

【テキスト】

太田愛之 他 『日本経済の二千年』勁草書房

【参考文献】

寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店
野口悠紀雄『1940年体制』東洋経済新報社

日本経済論 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本経済論 I では、日本経済をどのように把握するかを論じた上で、明治以後の日本経済の歩みを振り返ることによって、現在の日本経済の特徴や問題がいかにして形成されてきたのかを論じます。

【授業の展開計画】

第1週	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明		
第2週	序章 日本経済への視角	1. 日本経済観の系譜	
第3週	2. 日本社会は非近代的で不健全なのか 3. システムとしてとらえる		
第4週	第1章 日本経済の歩み ——明治から戦後復興まで		
	1. 近代経済発展の概観	2. 戦前の経済発展	
第5週	3. 戦時の統制経済 4. 戦後占領期		
第6週	第2章 高度経済成長 1. 高度経済成長の時代 2. 成長と循環		
第7週	3. 政策と社会		
第8週	第3章 1970年代の日本経済 1. 二つのショックと高度成長の終焉		
第9週	2. 成長率低下への調整 3. 減量経営と戦後社会の転換		
第10週	第4章 1980年代の日本経済 1. 国際経済・通貨の激動		
第11週	2. 「小さな政府」運動 3. バブルの発生		
第12週	第5章 バブル崩壊以後の日本経済 1. バブル反動不況		
第13週	2. 不況の二番底 3. 長期不況からの脱出		
第14週	補足1 アメリカの金融帝国主義		
第15週	補足2 グローバリゼーションと格差社会		
第16週	補足3 世界金融危機と国際通貨秩序の動揺		

【履修上の注意事項】

経済・社会問題の歴史的背景に関心を持ってください。。

【評価方法】

レポート60%、授業への参加姿勢（出席や質問等）40%

【テキスト】

伊藤修『日本の経済』中公新書・・・変更の可能性あり。

【参考文献】

寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店、エコノミスト編集部「世界恐慌を生き抜く経済学」毎日新聞社、テレビ東京報道局「ガイアの夜明け 経済大動乱」日本経済新聞出版社

日本経済論Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本経済論Ⅱでは、現在の日本経済の特徴やその直面する諸問題を論じます。

【授業の展開計画】

第1週	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明		
第2週	第6章 国際経済関係	1. 貿易の構造	2. 国際収支と為替レート
第3週	3. 理論的な混乱	4. 市場経済の限界	
第4週	第7章 日本の産業	1. 産業構造	2. 企業間関係 3. 市場構造
第5週	第8章 日本の企業経営	1. 「日本的経営」	
第6週	2. コーポレート・ガバナンス	3. 権限と責任	
第7週	第9章 日本の雇用と職場		
	1. 長期雇用と年功序列	2. 財界の雇用戦略	
第8週	3. 労使関係	4. 非正規雇用と女性労働	
第9週	第10章 日本の財政と社会保障	1. 財政の現状と 考え方	
第10週	2. 税・社会保障負担		
第11週	3. 社会保障をどうするか		
第12週	第11章 日本の金融	1. 戦後金融構造の転換	
第13週	2. 金融政策をめぐる論点		
第14週	3. 金融行政の原則	4. 金融行政の転換	
第15週	補足1 通貨主権と金融自由化		
第16週	補足2 環境問題の世界化と日本の伝統		

【履修上の注意事項】

経済や社会問題に関心を持ち、日々のニュースを注意してください。

【評価方法】

レポート60%、授業への参加姿勢（出席や質問等）40%

【テキスト】

伊藤修『日本の経済』中公新書・・・変更の可能性あり。

【参考文献】

小峰隆夫『最新 日本経済入門』日本評論社

ファイナンシャルプランニング

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。授業では、学科試験の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

【参考文献】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

ファイナンシャル・プランニング I

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。

授業では、「学科試験」の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

【参考文献】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

ファイナンシャル・プランニングⅡ

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。

授業では、「実技試験」の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

「ファイナンシャル・プランニングⅠ」の履修・学習を前提として授業を行う。
電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

【参考文献】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

福祉国家論

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「福祉国家論」は、国家の機能を安全保障や治安維持など最低限なものであるべきという自由主義国家論とは相対峙する概念である。経済的格差の是正のために、財政や雇用などの諸策も推進していくという概念である。本講義では、主に北欧型（スカンジナビア）、自由主義型（アングロサクソン）、保守主義型（欧州大陸）という三つの国家モデルから福祉国家について考える。最後に日本型福祉国家を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	福祉国家とは何か？
3	企業福祉とは何か？
4	国家の変遷
5	福祉国家の管理① - TVAを事例として -
6	福祉国家の管理② - 組織マネジメントを中心に -
7	福祉国家の管理③ - 組織マネジメントと経営学 -
8	中間試験
9	予算管理
10	集権と分権 - 第三の道 -
11	事例研究：アングロサクソンモデル
12	事例研究：北欧モデル
13	事例研究：欧州大陸モデル
14	事例研究：日本モデル
15	福祉国家論のまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 講義中の私語・携帯電話などは一切禁止。
- (2) 新聞の国際欄を読むように習慣づけること。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

エスピン・アンデルセン（岡沢・宮本監訳）『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房、2001年。
アンソニー・ギデンズ（佐和訳）『第三の道』日本経済新聞社、1999年。

プレゼンテーション

担当教員 高崎 理子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近年、文章作成およびプレゼンテーション能力の重要性が高まっています。こうした能力を学生時代から磨いておけば、就職活動時だけでなく社会人になってからも、様々な場面で役に立つことでしょう。そこで、この授業では、最初のステップとして、皆さんが現在よりも気軽に文章を書き、楽しんでプレゼンテーションをするきっかけとなるよう、具体的な方法を中心に説明していきます。また、皆さんが実際に練習をする機会を、できるだけ多くつくりたいと考えています。

【授業の展開計画】

まず、前半（2～7回目）で基礎的なレポートを書く力を身につけます。そして、前半で習得した文章作成力をもとに、後半（8～16回目）の授業では、説得力のあるプレゼンテーションを行う方法を習得していきましょう。最終的には、自分の考えを的確にまとめ、他の人にわかりやすく伝えることのできるレベルをめざします。

1. ガイダンス：講義の概要・成績評価方法についての説明
2. 文章作成の基本：礼状・自己PR文の書き方
3. レポートの基本①：プランの立て方、レポートの構成
4. レポートの基本②：テーマの決定、文献探索
5. レポートの実践①：文法・文章構造
6. レポートの実践②：引用・参考文献リスト、推敲
7. 中間テスト（レポート作成）
8. プレゼンテーションの準備①：プランの立て方
9. プレゼンテーションの準備②：スピーチ原稿の作成
10. プレゼンテーションの準備③：レジュメの書き方
11. プレゼンテーションの実践①：リハーサル、スピーチ原稿の修正
12. プレゼンテーションの実践②：早口言葉・アイコンタクトの練習
13. プレゼンテーションの実践③：グループ・プレゼン大会
14. プレゼンテーションの実践④：期末テストの準備（スピーチ原稿作成）
15. プレゼンテーションの実践⑤：期末テストの準備（リハーサルの仕方）
16. 期末テスト（スピーチ）

【履修上の注意事項】

- ・（抽選となった場合は）学年を問わず、抽選する予定です。

【評価方法】

・中間テストと期末テストの結果（50%）、授業への参加姿勢（50%）等から総合的に判断します。出席状況や講義での積極的な取り組みは、授業への参加姿勢の中で評価します。

【テキスト】

特に指定はありません。適宜、資料プリントを配布する予定です。

【参考文献】

- ・菊田千春、北林利治『大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術』（東洋経済新報社、2006年）
- ・小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社、2002年）

プログラミング演習

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、情報リテラシー演習に引き続き、情報機器の活用技術の獲得を目的とし、講義を行う。具体的には、表計算ソフトの関数機能を用いた経済分析への活用法や、マクロ機能を用いた簡単なプログラミング、データベースソフトの活用方法、さらに、これらを総合的にプレゼンテーションするための手法、などを習得することを主な目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	表計算ソフトの応用 (1)
3	表計算ソフトの応用 (2)
4	表計算ソフトの応用 (3)
5	表計算ソフトの応用 (4)
6	表計算ソフトの応用 (5)
7	データベースの基本操作 (1)
8	データベースの基本操作 (2)
9	データベースの基本操作 (3)
10	データベースの基本操作 (4)
11	データベースの基本操作 (5)
12	プレゼンテーションソフトの基本操作 (1)
13	プレゼンテーションソフトの基本操作 (2)
14	プレゼンテーションソフトの基本操作 (3)
15	期末考査
16	

【履修上の注意事項】

経済学科 1 年次の必修科目でありクラス指定があるので間違えないこと。また年度によって担当教員の変更があるので、オリエンテーションの際、確認すること。

【評価方法】

出席、提出物、期末考査などにより評価する。

【テキスト】

第一回目の演習の際に連絡する。

【参考文献】

若山芳三郎, 2001, 学生のための情報リテラシー, 東京電機大学出版局

マクロ経済学 I

担当教員 庵原 さおり

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、マクロ経済学で扱われる基礎的なモデル・概念を順に説明します。なお、理論的な分析にとどまらず、現実の経済政策・経済問題と比較した議論も随時取り入れたいと思います。そして最終的には、受講者が講義で学んだ知識をもとに、現実の経済政策・経済問題について自分なりに説明できるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本経済の循環と変動
- 第3回 GDPの概念と物価指数 (1)
- 第4回 GDPの概念と物価指数 (2)
- 第5回 GDPの概念と物価指数 (3)
- 第6回 マクロ経済学における「短期」と「長期」 (1)
- 第7回 マクロ経済学における「短期」と「長期」 (2)
- 第8回 所得はどのように決まるか (1)
- 第9回 所得はどのように決まるか (2)
- 第10回 貨幣の需給と利子率 (1)
- 第11回 貨幣の需給と利子率 (2)
- 第12回 IS-LM分析と財政金融政策 (1)
- 第13回 IS-LM分析と財政金融政策 (2)
- 第14回 IS-LM分析と財政金融政策 (3)
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から必ず出席するようにしてください。

【評価方法】

出席 (30%) と宿題 (20%) と期末試験 (50%) をもとに、総合的に評価します。

【テキスト】

中谷巖『入門マクロ経済学 (第5版)』日本評論社、2007年

【参考文献】

- ・大竹文雄『スタディガイド入門マクロ経済学 (第5版)』日本評論社、2007年
- ・二神孝一『マクロ経済学入門 (第2版)』日本評論社、2009年

マクロ経済学 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学は、これから皆さんが学んでいく理論、実証、政策等の諸科目の基礎になる必須の知識を提供します。また、経済のニュース等を理解するためにも必要ですし、公務員試験や就職試験等でもよく出題されます。講義は日本で最もポピュラーな中谷巖先生の教科書に沿って行われます。広範囲の内容が現在の主流派の考えに従って整理されていますが、幅広い内容の本なので根気よく取り組むことが肝要です。

【授業の展開計画】

第1週		講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明
第2週	Part 1	イントロダクション
第3週		第1章 日本経済の循環と変動
第4週		第2章 GDPの概念と物価指数（1）
第5週		第2章 GDPの概念と物価指数（2）
第6週		第3章 マクロ経済学における短期と長期宿題の解説等
第7週	Part 2	短期モデル
第8週		第4章 所得はどのように決まるか（1）
第9週		第4章 所得はどのように決まるか（2）
第10週		第5章 貨幣の需給と利子率（1）
第11週		第5章 貨幣の需給と利子率（2）
第12週		第6章 IS-LM分析と財政金融政策（1）
第13週		第6章 IS-LM分析と財政金融政策（2）
第14週		第7章 国際マクロ経済学（1）
第15週		第7章 国際マクロ経済学（2）
第16週		練習問題の解説等
第16週		期末試験

【履修上の注意事項】

予習復習を欠かさず、ノートを採ること、解らない所があれば解るまで質問をして下さい。章ごとに宿題を出します。経済のニュースに関心を持ってください。

【評価方法】

試験50%、宿題20%、授業への参加姿勢（出席や質問等）30%

【テキスト】

中谷巖 『入門 マクロ経済学 第5版』日本評論社・・・変更の可能性あるので、買うのは第1週の講義の紹介を聞いてからにして下さい。

【参考文献】

大竹文夫 『スダイガイド 入門マクロ経済学 第5版』日本評論社、
ジョン・ケイ 『市場の真実』中央経済社

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 庵原 さおり

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、マクロ経済学Ⅰと同様、マクロ経済学で扱われる基礎的なモデル・概念を順に説明します。なお、理論的な分析にとどまらず、現実の経済政策・経済問題と比較した議論も随時取り入れたいと思います。そして最終的には、受講者が講義で学んだ知識をもとに、現実の経済政策・経済問題について自分なりに説明できるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 IS-LM分析と財政金融政策（前期の復習）
- 第3回 国際マクロ経済学（1）
- 第4回 国際マクロ経済学（2）
- 第5回 国際マクロ経済学（3）
- 第6回 国際マクロ経済学（4）
- 第7回 短期モデルと長期モデルの比較（1）
- 第8回 短期モデルと長期モデルの比較（2）
- 第9回 短期モデルと長期モデルの比較（3）
- 第10回 短期モデルと長期モデルの比較（4）
- 第11回 短期モデルと長期モデルの比較（5）
- 第12回 物価水準はどのように決まるか（1）
- 第13回 物価水準はどのように決まるか（2）
- 第14回 物価水準はどのように決まるか（3）
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について詳しく説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席（30%）と宿題（20%）と期末試験（50%）をもとに、総合的に評価します。

【テキスト】

中谷巖『入門マクロ経済学（第5版）』日本評論社、2007年

【参考文献】

大竹文雄『スタディガイド入門マクロ経済学（第5版）』日本評論社、2007年
二神孝一『マクロ経済学入門（第2版）』日本評論社、2009年

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学は、これから皆さんが学んでいく理論、実証、政策等の諸科目の基礎になる必須の知識を提供します。また、経済のニュース等を理解するためにも必要ですし、公務員試験や就職試験等でもよく出題されます。前期のマクロ経済学Ⅰに引き続き、テキストの残りの部分を講義します。

【授業の展開計画】

第1週	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明		
第2週	Part 3 長期近郊への調整	第8章	短期モデルと長期モデルの比較（1）
第3週		〃	短期モデルと長期モデルの比較（2）
第4週		第9章	物価水準はどのように決まるか（1）
第5週		〃	物価水準はどのように決まるか（2）
第6週		第10章	インフレとデフレ（1）
第7週		〃	インフレとデフレ（2）
第8週	Part 4 消費・投資	第12章	消費と貯蓄（1）
第9週		〃	消費と貯蓄（2）
第10週		第13章	投資決定の理論（1）
第11週		〃	投資決定の理論（2）
第12週	Part 5 マクロ経済学の新潮流	第15章	マクロ政策の有効性について
第13週		第16章	エピローグ
第14週	練習問題解説等		
第15週	質問等		
第16週	期末試験		

【履修上の注意事項】

予習復習を欠かさず、ノートを採ること、解らない所があれば解るまで質問をして下さい。章ごとに宿題を出します。経済のニュースに関心を持ってください。

【評価方法】

試験50%、宿題20%、授業への参加姿勢（出席や質問等）30%

【テキスト】

中谷巖 『入門マクロ経済学 第5版』日本評論社・・・変更の可能性あり。

【参考文献】

大竹文夫 『スグダイガイド 入門マクロ経済学 第5版』日本評論社、ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社、井本友文『ジョブレス・リカバリー』日本評論社

マルクス経済学 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルクス経済学は、わが国の高度成長期にも、その破綻の時期にも、絶えず真実を追究しつづけてきた。そして現在、世界の激動期に、ますますその真価を発揮しつつあるものが、マルクス経済学である。従来の経済学は、人間や自然の視点が欠落しているといわれる。いわば人間の根元的な営みが全く無視されてきたのである。この問題に関する答えは、実はマルクス経済学が提供してくれる。そのような意味で、この経済学を学ぶ意義がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価の方法などの説明
2	マルクス経済学の形成
3	初期マルクス
4	中期マルクス
5	『資本論』の成立
6	マルクス経済学の対象と課題
7	マルクス経済学の方法
8	商品の二要因と労働の二重性
9	価値形態論の課題
10	価値表現の論理
11	価値形態の発展
12	商品の物神性
13	交換過程の課題
14	全面的交換の矛盾と貨幣成立の必然性
15	貨幣の諸機能
16	期末試験

【履修上の注意事項】

理論を積み重ねていく講義であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

講義の中で適宜指示する。

マルクス経済学Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルクス経済学Ⅰからの続きである。ここでは貨幣、資本、剰余価値理論、賃金論を中心に講義を進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	貨幣の機能
2	価値の尺度、価格の度量基準、铸貨、価値章標
3	貨幣蓄蔵、支払い手段、世界貨幣
4	貨幣の資本への転化—資本の概念
5	W-G-WとG-W-Gの形態的、内容的相違
6	資本の一般的定式の矛盾
7	労働力の売買
8	労働力の商品化と価値規定
9	剰余価値の生産
10	絶対的剰余価値
11	相対的剰余価値、特別剰余価値
12	賃金
13	労働力の価値および価格の賃金への転化
14	賃金の基本形態—時間賃金、出来高賃金
15	資本の循環過程
16	期末試験

【履修上の注意事項】

理論の積み重ねの講義であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

必要があれば講義時に指示する。

マルチメディア表現

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルチメディアに関する基本的な考え方、基礎的な技術や表現方法を実践的な演習・実習を通して修得し、「情報を伝達する」ということや「イメージと表現」についての理解を得ることを目的とする。イメージの様々な基本的表現や、ビジュアルコミュニケーションにおけるデザインのありかた、また、技術や視覚的効果としてのレイアウト（レイアウト・フォーマットの概念）などについて学習し、その重要性を認識・実践できることを目標とする。

【授業の展開計画】

到達目標は以下のとおり。

1. マルチメディアの基本的概念について説明ができる
2. 各メディアの特性と制作に必要な技術の基本理論について説明ができる
3. ビジュアルコミュニケーションを通してアイデアを視覚化することができる
4. インストラクショナル・デザインを踏まえ、マルチメディアコミュニケーションの評価手法を身につける

- 1回目：メディア・リテラシーの定義（様々なメディア・リテラシーの定義を習得し、自分なりの定義を説明）
- 2回目：フォトランゲージ（写真を読み取る力をつけ、メディアの特性を習得）
- 3回目：マルチメディアの定義と特性（各メディアの特性と利用法を習得し、マルチメディアの定義を説明）
- 4回目：インターネットの仕組み（インターネットの仕組みを理解し、検索方法、メイリングリスト、ストーリーミング技術を理解）
- 5回目：マルチメディアの表現法（様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得）
- 6回目：マルチメディアの表現法（様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得）
- 7回目：プレゼンテーション手法（パソコンを利用して、効果的なプレゼンテーション手法を習得）
- 8回目：プレゼンテーション手法：上記の続き
- 9回目：中間試験
- 10回目：インストラクショナルデザインの原理（教材開発、メディア開発に必要な設計方法を習得）
- 11回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き
- 12回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き
- 13回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講
- 14回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講
- 15回目：振り返り
- 16回目：最終試験

【履修上の注意事項】

ディスカッション形式や発表の場面が多いため、積極的に授業参加を求める。

【評価方法】

授業への出欠、参加姿勢、最終試験などを総合的に判断、評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。手適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

インストラクショナルデザインの原理（鈴木克明監訳：北大路書房）、行動変容法入門（レイモンドGミルテンバーガー）他、。

ミクロ経済学 I

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことによって、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。ある程度の数学的知識が必要なので、高校の数学はきちんと復習しておくことを希望します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画の説明
2	ミクロ経済学の考え方
3	市場と需要・供給
4	消費者と需要 I
5	消費者と需要 II
6	消費者行動と需要曲線 I
7	消費者行動と需要曲線 II
8	消費者行動と需要曲線 III
9	中間試験
10	企業行動と生産関数 I
11	企業行動と生産関数 II
12	企業行動と生産関数 III
13	企業行動と費用曲線 I
14	企業行動と費用曲線 II
15	企業行動と費用曲線 III
16	期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

伊藤元重 「ミクロ経済学」 日本評論社

【参考文献】

N. グレゴリー マンキュー 「マンキュー経済学〈1〉ミクロ編」 東洋
経済新報社、ハル・R. ヴァリアン 「入門ミクロ経済学」 勁草書房 など

ミクロ経済学 I

担当教員 松崎 大介

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、ミクロ経済学を通じ、近代経済学を理解する基礎を築くことを目的とする。ミクロ経済学は伝統的に「価格理論」とも呼ばれており、市場の持つ価格メカニズムを通じた様々な資源配分機能を分析するものである。本講義では、まず市場が十分機能する理想的な状況を想定し、現実経済がそこからどのような形で逸脱するかについて考察する。これらの考察を通じ、経済学的なものの見方、分析方法を学んでもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（登録と講義計画）
2	近代経済学におけるミクロ経済学の位置とその役割
3	相互依存と交易からの利益
4	市場の存在による効率性
5	最適行動（各経済主体の誘因）
6	需要と供給の作用 I
7	需要と供給の作用 II（弾力性について）
8	需要と消費者余剰
9	公共財と効率性
10	課税と外部性 I
11	課税と外部性 II
12	家計の予算（2財2価格モデル）
13	家計の選好
14	代替効果と所得効果 1
15	代替効果と所得効果 2
16	テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストの成績を基礎に、出席、その他を加味し評価。

【テキスト】

第1回目の講義にて指示する。

【参考文献】

H.R. ヴァリアン, 2000, 入門ミクロ経済学（勁草書房）；N.G. マンキュー, 2000, マンキュー経済学 I ミクロ編（東洋経済新報社）；J.E. スティグリッツ, 2013, ミクロ経済学 第4版（東洋経済新報社）；西村和雄, 1990, ミクロ経済学（東洋経済新報社）

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことによって、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実を見ることがきるような理論的基礎を築くことが目的です。ある程度の数学的知識が必要ですので、高校の数学はきちんと復習しておくことを希望します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画の説明
2	企業の長期費用曲線Ⅰ
3	企業の長期費用曲線Ⅱ
4	完全競争市場と効率性Ⅰ
5	完全競争市場と効率性Ⅱ
6	完全競争市場と効率性Ⅲ
7	不完全競争市場Ⅰ
8	不完全競争市場Ⅱ
9	不完全競争市場Ⅲ
10	中間試験
11	生産要素市場Ⅰ
12	生産要素市場Ⅱ
13	市場の失敗
14	ゲームの理論
15	その他ミクロ経済のトピックとまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

伊藤元重 「ミクロ経済学」 日本評論社

【参考文献】

N. グレゴリー マンキュー 「マンキュー経済学〈1〉ミクロ編」 東洋経済新報社、ハル・R. ヴァリアン 「入門ミクロ経済学」 勁草書房

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 松崎 大介

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、ミクロ経済学を通じ、近代経済学を理解する基礎を築くことを目的とする。ミクロ経済学は伝統的に「価格理論」とも呼ばれており、市場の持つ価格メカニズムを通じた様々な資源配分機能を分析するものである。本講義では、まず市場が十分機能する理想的な状況を想定し、現実経済がそこからどのような形で逸脱するかについて考察する。これらの考察を通じ、経済学的なものの見方、分析方法を学んでもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（登録と講義計画）
2	企業の生産と利潤
3	企業の費用構造Ⅰ
4	企業の費用構造Ⅱ（長期および短期）
5	完全競争と市場供給曲線
6	完全競争市場における参入と退出
7	独占
8	独占利潤と価格差別の形態
9	独占的競争
10	寡占Ⅰ（ゲーム理論とナッシュ均衡）
11	寡占Ⅱ（クールノー競争）
12	寡占Ⅲ（ベルトラン競争）
13	寡占Ⅳ（立地競争）
14	一般均衡分析Ⅰ
15	一般均衡分析Ⅱ
16	テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストおよび小テストの成績を基礎に、レポート、出席、その他を加味し評価。

【テキスト】

詳細は第一回目の講義の際に指示する。

【参考文献】

H.R. ヴァリアン, 2000, 入門ミクロ経済学（勁草書房）；N.G. マンキュー, 2000, マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（東洋経済新報社）；J.E. スティグリッツ, 2013, ミクロ経済学 第4版（東洋経済新報社）；西村和雄, 1990, ミクロ経済学（東洋経済新報社）

理論経済学 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学やミクロ経済学の標準的な経済理論（新古典派経済学）はかなり極端な前提の上に構築されたものです。これらは現実の写実的な描写というよりはむしろ象徴的なモニュメントと見るべきでしょう。最先端の経済学が情報の不完全性、リスク、計画、環境問題、市場の進化、協力と社会的統合、貧富の格差等の現実をどのように見ているのか、数学をまったく使わずに解説します。マクロ・ミクロの経済学を履修した人にもまだ履修していない人にも役に立つと思います。

【授業の展開計画】

テキストを丁寧に解説した後で補足説明をします。

第1週	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明
第2週	序章 市場の勝利
第3週	第I部 経済システムの構造
	第1章 市場と制度
第4週	第2章 生産と交換
第5週	第3章 配分
第6週	第4章 中央による計画化
第7週	第5章 多元主義
第8週	第6章 自然発生的な秩序
第9週	第II部 市場についての真実
	第7章 新古典派経済学とその後
第10週	第8章 合理性と適応性
第11週	第9章 情報
第12週	第10章 現実のリスク
第13週	第11章 協力
第14週	第12章 調整
第15週	第11章 知識経済
第16週	補足 信頼と組織、雇用と文化

【履修上の注意事項】

世界の政治・経済・社会に関心を持っている人なら、ミクロ・マクロの経済学を未履修であっても構いません。この講義によって、ミクロやマクロの経済学に興味を深めるだろうと思われます。

【評価方法】

レポート60%、授業への積極性(出席や質問等)40%

【テキスト】

ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社

【参考文献】

荒井一博 『信頼と自由』勁草書房

荒井一博 『文化・組織・制度』有斐閣

理論経済学Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

理論経済学Ⅰに引き続き、テキストの残りの章を説明した後に、関連する問題・・・主としてマクロ経済学や国際経済学の問題・・・を採り上げます。

【授業の展開計画】

テキストの解説の後に、テキストを補足するための議論をします。

第1週	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明
第2週	第Ⅲ部 市場はどのように動いたか
	第14章 貧しい国は貧しいままに
第3週	第15章 誰が何を得るのか
第4週	第16章 場所
第5週	第17章 アメリカン・ビジネス・モデル第
第6週	第18章 経済学の将来
第7週	補足1 「冷戦の勝利」と「歴史の終わり」、 ワシントン・コンセンサスとグローバリズム
第8週	補足2 新自由主義・市場万能主義とアメリカ社会の2極分解
第9週	補足3 グローバリゼーションと南北問題、途上国の分解、制度・社会・文化の画一化
第10週	補足4 グローバリゼーションと先進国の労働市場、北欧と日本
第11週	補足5 「資本主義対資本主義」
第12週	補足6 ドル覇権と金融帝国主義、世界金融危機と世界不況、国際通貨体制の動揺
第13週	補足7 バブルとデフレ
第14週	補足8 新古典派とケインズの経済学
第15週	補足9 財政危機の克服と金融システム再編成
第16週	補足10 日本型資本主義の再評価と進化のために

【履修上の注意事項】

テキストの著者ケイは実に広範なテーマを巧みな話術で軽妙に捌いていきますが、扱っている問題は実はとても高度な問題です。また、とても博学なのでたくさんの引用をしますが、細部には余りこだわらず、経済学の全体像をつかむようにしてください。

【評価方法】

レポート60%、授業への積極性(出席や質問等)40%

【テキスト】

ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社

【参考文献】

小林由美『超・格差社会アメリカの真実』日経BP/J・E・ステイグリッツ『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店/T・フリードマン『フラット化する世界(上、下)』日本経済新聞社

労働経済学 I

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄県の失業率は、全国一高い水準となっており、高校・大学卒業予定者の内定率も全国に比べ低い。また、フリーターやニートなど若年者の雇用・失業問題も社会的な関心を高めている。このような環境は、いずれ就職戦線に出る皆さんにも身近な問題である。本講義では、労働市場を形成する労働供給及び労働需要の要因について学ぶ。すなわち、我々は何を基準に働こうとするのか、企業は何を基準に労働者を雇おうとするのか、また、なぜ失業が発生するのかなど労働経済の基礎理論を学ぶ。これによって、労働経済学Ⅱでテーマとして取り上げるフリーター、若年失業率の高さ、学歴・男女間賃金格差などの現在の労働問題の理解が容易になる。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明

第2週～第10週（基礎理論編）

1. 労働経済学について
2. 労働需要
3. 労働供給
4. 労働市場分析（労働の需給分析）

第11週～16週（実態編）

5. 失業Ⅰなぜ失業は発生するのか（失業の理論）
6. 失業Ⅱどんな人が失業しているのか（ビデオ鑑賞など）
7. 賃金（年功序列賃金、成果主義など）
8. 労働時間（残業代の理論など）
8. 期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映等を行う。

【参考文献】

清家篤著、「労働経済」東洋経済出版社、玄田有史 「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、中馬宏之著、「労働経済学」新世社

労働経済学Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、労働経済学Ⅰで学んだ基礎理論をもとに沖縄県の雇用労働情勢や雇用政策等の現実の問題、さらに国や県が行っている雇用政策等について学ぶ。

特に、フリーターや若年失業者問題は学生諸君にとって身近な問題であり、若年者の意識の問題や企業側の問題についてビデオ等による具体例を見ながら検討する。また、正社員と非正社員の処遇を巡る問題、賃金における学歴格差や男女間格差等についても学ぶ。さらに、オランダにおけるワークシェアリングなど海外の働き方や雇用対策についても学ぶ。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明

- 現在の労働問題概観（景気と労働問題、若者の働き方、派遣の問題など）
- 賃金と労働時間
- 賃金格差Ⅰ（高卒と大卒なぜ賃金が違うのかなど）
- 賃金格差Ⅱ（男女格差、産業間格差の実態など）
- 全国と沖縄の雇用・失業状況
- 若者の雇用問題Ⅰ（大卒の就職率、フリーターなどの現状）
- 若者の雇用問題Ⅱ（若者の就業意識、企業はフリーターをどう評価しているかなど）
- 沖縄の雇用問題Ⅰ（現状と課題）
- 沖縄の雇用問題Ⅱ（沖縄の若者はなぜすぐ離職するのかなど）
- ワーキングプアの実態
- グローバル時代における働き方Ⅰ（海外に仕事が流れる、労働移民の実態など）
- グローバル時代における働き方Ⅱ（日本と外国どっちが働きやすいのかなど）
- 高齢者雇用問題（定年制、年金問題、再雇用の問題など）
- これからの働き方（ワークシェアリング、ワークライフバランスなど）
- 期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映等を行う。

【参考文献】

樋口美雄著、「労働経済学」東洋経済出版社、玄田有史著、「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、玄田有史、「ニートフリーターでもなく失業者でもなく」幻冬舎